

ねやがわディベート（ver.5）

寝屋川市教育委員会
ねやがわディベート研究部

目次

1	ディベートとは	1
2	「言い認め合い」のディベートとは	
3	ディベートで身に付く5つの力	
4	ディベートで育つ姿	
5	ディベートの主なルール	
6	ディベートで子ども同士をつなぐために	
	(1) 学級経営との関連を意識する	2
	(2) ディベートの指導におけるポイントとなる10の声かけ	3
7	よりよいディベートを実現するために	
	(1) ディベートにつながるゲームや活動を取り入れる	5
	(2) 多面的・多角的に考える思考を鍛える	12
	(3) 実態に即して様々なディベートの形を段階的に行う	13
	(4) 説得力を生むための指導を取り入れる	14
	(5) 教科指導との関連を考える	15
	(6) “客観的”なディベートの前後で“主観的”に考える時間を持つ	16
8	ディベートの論題について	18
9	フローシートについて	19
10	板書について	20
11	フィードバックの大切さについて	20
12	ICTの活用について	23
13	ディベートの評価について（参考資料）	23

巻末資料

- ねやがわディベート 年間カリキュラム（例）
- フローシート（記入用・記入例）
- 話型指導・活用の留意点
- 年間指導計画例（4年生～中学3年生）
- ねやがわディベート論題集
 - ①各校実施ディベート論題事例
 - ②各教科との関連を図った論題（小学校）
 - ③各教科との関連を図った論題（中学校）

寝屋川市の目指す子ども像

考える力を身に付けた たくましく生き抜く子

寝屋川が目指す教育のイメージ図とディベート教育の位置づけ

考える力を身に付けた たくましく生き抜く子



生き抜く力の根っこを育む 「寝屋川教育」

「寝屋川教育」のベースとなる「考える力」の育成

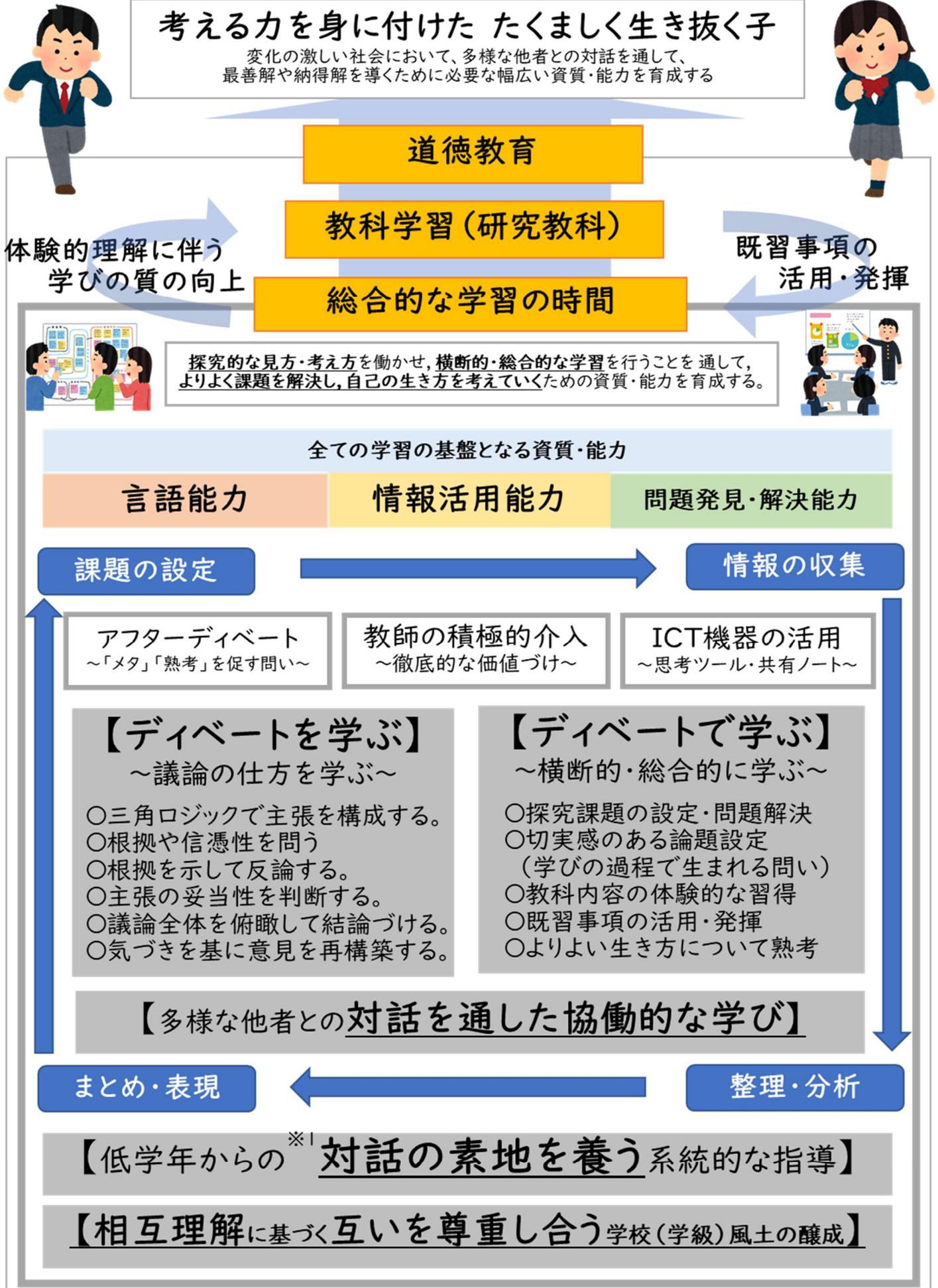
「考える力」の基礎は、本来、家庭でのコミュニケーション等の中で育まれていくものであると考えられますが、環境の違い等によりその力の形成に影響を受けている現状があります。そのため、学校において、ディベート教育や道徳教育等により「考える力」を着実に育むことで、学びの基礎をより確かなものにすることができるよう取組を進めることが大切であると考えています。

環境の違い等による格差が、中学校を卒業する時の子どもたちの進路を狭めることの無いよう、その格差を乗り越え、自らの進路を自らの力で切り開けるような力を育成することが、「寝屋川教育」の目指すものです。

学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」につながるディベート

「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を行うには、私たちの今までの「授業観」を変えることが必要です。「正解を教師が持っていて、それを子どもたちに一方的に教え込む」型の授業から、子どもたちを「主体的な学び手として育てる」指導の考え方やあり方について研究・実践していくことが求められています。ディベートは、そうした指導の1つとして有効な手段です。そこで、寝屋川市では学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」を実現し、それによる「考える力」の育成を目的として、ディベートを活用します。

※これらの目標を実現するために、本冊子を活用し各校で取組を進めてください。



※ | 対話の素地…「相互理解」×「意見を伝え合うことの面白さの体験的理解(聴き合い)」×「話す・聴く技能の習得」

1. ディベートとは

「審判」を説得するために、

- ・根拠を伴った意見を述べ合う
- ・お互いの意見を質問し合って明確にし合う
- ・相手の意見に対して反論を述べ合う

という「ルールのある」話し合いのゲーム

2. 「言い認め合い」のディベートとは

双方の相違点や問題点を明らかにし、そこから建設的な解決策を見出すために行う議論を指す。寝屋川市では、「言い認め合い」のディベートを実施し、多様な他者と協働しながら、合意形成を図るための総合的な力を育成する。

3. ディベートで身に付く5つの力

- ① 論理的思考力
- ② 問題解決能力
- ③ 情報選択能力
- ④ 客観的・多角的にみる力
- ⑤ 対話力（話す力+聴く力）



4. ディベートで育つ姿

- ①筋道を立てて考えることができる
- ②相手を尊重して話し合うことができる
- ③必要な情報を集め活用することができる
- ④その場の空気に流されて動くことのない健全な個が育つ
- ⑤そのような個が集まることで望ましい学級集団へと学級が成長する

- ・相手の発言を傾聴する → **個人が成長する**
- ・自分の発言に責任を持つ
- ・チームで行うため、仲間との協力関係が深まる → **学級づくりにつながる**

5. ディベートの主なルール（※ルールは必要だが、実態によって柔軟に設定すること）

- ①大きく分けて「準備型ディベート」と「即興型ディベート」がある
- ②論題（話し合うテーマ）が決まっている
- ③立場が2つ（肯定と否定、AとBなど）に分かれ、全員に役割がある
- ④「自分の考え」と「ディベートをするうえでの立場」とは無関係である（＝人と意見を区別する）
※徹底されていないと、判定することをためらったり、選ばなかったチームに謝罪したりするようになってしまう。
- ⑤主に、肯定側立論→否定側質疑→否定側立論→肯定側質疑→否定側反駁→肯定側反駁→判定という流れで行われる（「質疑を省略する」、「第二反駁や最終弁論を追加する」等の方法もある）
- ⑥立論・質問・反駁できる人と時間は決まっている（実態に応じてその長さを変えてもよい）
- ⑦勝敗がある

A. 準備型ディベート

事前準備を行ってから、ディベートマッチに臨むやり方。

事前準備のステップ例

- ① 論題についてのメリット・デメリットを、個人学習、KJ法、話し合い等でまとめ、立論に使用する根拠の案を作成する。（2h）
- ② 資料やデータを収集する。（インターネット、新聞、書籍、インタビュー等）（1h）
- ③ 「自分たちの主張を強めることができるか」「出典は確かか」「いつのデータか」等の視点から資料やデータを吟味する。（2h）
ア. 立論を作成する。
イ. 資料の作成を行う。（その力を伸ばしたい、提示が必要な段階である、といった場合）
- ④ 質疑、反駁を予想し、対策を練る。（1h）
- ⑤ チーム内で模擬ディベートマッチを行い、修正やさらなる資料の収集等を行う。（1h）
- ⑥ ディベートマッチを実施する。（1～3h）

<メリット>

- ・「2. ディベートで身に付く5つの力」のうち、特に「③情報選択能力」の向上が見込まれる。
- ・ 自主学习等との接続を図りやすい。
- ・ 議論が深まりやすい＝論題についてより深く考えることができる。 等

B. 即興型ディベート

直前に論題を提示し、即興的にディベートマッチに臨むやり方。

即興型ディベートの実施手順例（教科での学習内容から論題を設定した場合）

- ① 各教科等の学習内容から、議論したいこと論題として設定する。
- ② 論題に即した主張と根拠を学習内容等から考え、立論を作成する。
- ③ 役割を決め、それぞれの役割に即した話型の書かれたワークシートを準備する。

<メリット>

- ・「2. ディベートで身に付く5つの力」のうち、（特に即興的に）「⑤話し合う力」の向上が見込まれる。
- ・ 各教科等との接続を図ることで、学習内容がより定着する。
- ・ 各教科等の話し合い活動が活発になる。 等

※「準備型ディベート」と「即興型ディベート」は、「どちらか一方だけがいい」ということではなく、それぞれの良さ、ねらいがある。児童・生徒の実態を見極め、バランスよく設定することが大切である。

【参考動画】 「KIDSの即興ディベート」
URL: <https://dbf.jp/kids/debate/>



6. ディベートで子ども同士をつなぐために

(1) 学級経営との関連を意識する

本市ディベート講師の菊池省三先生は、ディベートと学級経営（学級づくり）との関連を以下のように述べている。

ディベートを通して、子どもたちの話し合う力は、確実に飛躍的に伸びていきます。そして、ディベート指導の効果によって、話し合う力が伸びるだけでなく、その場の空気に流されて動くことのない健全な個が育ち、そのような個が集まることによって、望ましい集団へと学級が成長していくのです。

今回、特に強調したいのはこの点です。私は、それを「学級ディベート」と名付け、望ましい学級づくりをしていくための土台づくりとして、ディベートを取り入れていくことを提案します。

ディベートで望ましい集団を創っていくことができる理由は、ディベートのもつルールが

- ・ 人と意見を区別する
- ・ 根拠を伴った意見を比較し合う
- ・ 反論し合うことで互いの主張を成長させ合う

といった、社会に生きる人間として必要な考え続ける力を育てることができるからです。

「学級ディベート」 菊池省三（中村堂2018）P.10より

ディベートにおける話し合いは、一つに決められた正解、「絶対解」を求めるのではなく、議論を深めながら「納得解」に迫っていくものです。その過程の中に、子どもたちが成長するきっかけがあり、子どもたち同士で成長させ合う場もあるのです。そこでは、私が教室の中で求める「考え続ける人間を育てる」ことができるのです。

同P.16より

これまでのねやがわディベートの取組から、そうした「学級経営との関連」に関する先生方の声を紹介します。

①「子ども同士の交流の機会としてのディベート」

- ・交流が増えて、クラスの雰囲気よくなりました。
- ・普段話をしない子同士が話す機会が増えました。
- ・普段発表しない子が、ディベートの時間には発表できるようになりました。



②「認め合える空気を作るディベート」

- ・話すことが得意な子、書くことが得意な子など、それぞれの良い所を認め合える機会になっています。
- ・クラス全員が自分の話をフローシートに必死にメモする姿を目の当たりにして、真剣に聞いてくれていると実感できます。



③「活躍の場としてのディベート」

- ・ディベートやコミュニケーションゲームでの姿を価値づけ、全体共有することで、活躍する子が増えました。
- ・ユニークな文章表現や独特な考え方などが排除されず、逆に新たな視点をもたらすものとしてクラスメイトたちから脚光を浴びています。
- ・教科指導の際には見られない、その子の違った一面が見え、教師も子どもを多面的に見ることができるようになりました。
- ・全員に1人1役あることで、自己肯定感の向上につながっています。



④「集団の団結を促すディベート」

- ・友だちの意見を遮らずに聞けるようになりました。
- ・相手の意見を受け入れられる子が増えました。
- ・仲の良さから、厳しいことが指摘し合えず、流されることが多かった子たちが、「〇〇だからダメ」と伝え合えるようになりました。



(2) ディベートの指導におけるポイントとなる 10 の声かけ

①「Win-Win-Winにしよう」

・みんなが幸せになれる話し合いをしよう

審判を説得しようとするのではなく、相手チームを攻撃しようとしがちである。そうではなくて、第三者である審判を説得するために冷静に議論を行うよう意識させる。自分たちだけでなく、相手チームや審判に対してもプラスになる議論を心がけさせる。

②「意見は、否定し合うのではなく成長させ合うのです」

・つぶし合うのではなく豊かになろう

相手の意見を否定することだけに気を取られる子どもが出てきた場合は、主張を成長させ合うことを意識させる。

そのためにもメモ（フローシート）をもとに、かみ合った議論になるようにする。
（相手の立場や意見を尊重しながら、自分の考えを主張する。）

③「人と意見を区別しよう」

・試合後に相手を称えることができる人になろう

感情的になって相手の人格を否定することがないようにする。

ディベートには、ルールがあるため、両方の立場を体験させる。

これによって、人と意見を区別するという話し合いで大事なことを理解させる。

④「思いつき発言ではなく主張（意見＋理由）しよう」

・意見には理由がないといけません

ディベートは、声の大きさや日頃の人間関係で左右されるものではない。

根拠を丁寧に述べるのが大切である。

特に、肯定側は最初に議論を起こすことから、その意味（現状を変えるための問題提起であること）をしっかりと伝えなければならない。

⑤「立証責任、反証責任を果たそう」

・根拠比べのゲームです

それぞれが、メリットやデメリットが起こるといふ証明をしなければならない。

「なぜ、そう言えるのか」という根拠を伴った主張をさせる。

肯定側には立証責任が、否定側には反証責任があることも伝える。

⑥「相手の意見を読む楽しさを学ぼう」

・先を読む力が考える力です

相手チームに勝つことだけが目的にならないようにする。

ディベートの面白さは、相手の意見を「～と言うのではないか」と読むことにある。

ただ勝ち負けばかりを気にするのではないことを理解させる。

⑦「審判としての責任を果たそう」

・判定にもその人の誠実さが出ます

何となく印象だけで判定してしまうことがある。そのようなことがないように、メモ（フローシート）を基に、判定の根拠を、責任をもって述べさせる。

⑧「出席者ではなく参加者になろう」

・力のある人は、全体のことも考えられます

チームで行う学習だが、人任せにする等、自分のことだけしか考えない子どもがいた場合は、事前の準備や試合中も互いに協力してチームの一員としての自覚を促す。

全員参加の話し合いを目指すことにつながる。

⑨「空白の1分間を黄金の1分間にしよう」

・反省した人が伸びます

中途半端な準備や話の聞き方では、的確な質問や反論はできない。

持ち時間で何もできない状態になる。

反省を次に生かすことで、真摯な学び手に育ってくる。

⑩「勝敗は準備で8割決まります」

・チームを組んで協力して仕事ができる人になろう

「その場でどうにかなるだろう」、といった安易な気持ちでディベートに臨む子どもがいた場合には、準備を通じてチームで協力し合う大切さを伝える。

覚えるだけの学びではなく、考え続けるという学びの体験にもなる。

7. よりよいディベートを実現するために

(1) ディベートにつながるゲームや活動を取り入れる

- ・「説明→活動→ふり返り」を基本とする。
- ・ゲーム性のあるもので体験しながら身につけさせたり、空気感を作ったりしていく。
- ・なるべく、失敗感の少ないもので体験させていく。
- ・活動をしながら価値を共有しておく。
(例)「質問し合うことは、楽しいこと」 「ディベート(質問・反駁)は思いやり」
「人と意見を区別する」

【主に就学前】

活動例1「言葉あそび」

毎日時間を確保し、言葉を使って遊ぶ。

○目的・効果

- ・楽しみながら語彙数を増やすことができる。
- ・一方的ではなく、やり取りをする必要がある遊びにすることで、「話し合う」素地を作る。

○言葉あそびの例

- ・落ちた落ちた・お店屋さんあるある・さかさ言葉・早口言葉・しりとり
なぞなぞ・とんとんゲーム(MIM) 等

活動例2「言葉あつめ」

いろいろな方法で言葉を集める活動

○目的・効果

- ・楽しみながら語彙数を増やすことができる。
- ・文字や物の名前等に興味を持ち、図鑑などにも触れ、調べ学習にもつながる意識が高まる。

○言葉あつめの例

- ・「あいうえおボックス」+「ひらがなカード」でその音で始まる言葉を集める
- ・あいうえお表に集めた名詞を書き込む。
- ・テーマを決めて言葉を集める。その言葉でビンゴゲームをする。
- ・言葉リレー(「あ」～「ん」から始める言葉を一人ずつ順番に発表する)をする。
- ・言葉集め競争をする。
- ・「〇っ〇」のように、条件を決めて言葉を集める。

【幼小連携】

活動例3「カルタづくりとカルタゲーム」

園児が絵と二語文を、小学生がそれらを絵札・読み札にして、かるた遊びをするゲーム

○目的・効果

- ・自分たちで集めたり作ったりした言葉で遊ぶことで、言葉の定着や語彙力の向上を図る。
- ・集中して聞く態度を養うことができる。
- ・二語文で構成されているため、発達段階に応じた文章に何度も触れる機会になる。

○進め方とルール

- ①園児が上記の「言葉あつめ」で集めた言葉を使って、二語文を作る。
- ②園児が二語文に合った絵を描く。
- ③小学校へ送る。
- ④小学生が①の二語文に、修飾語や形容詞等を付け加えて詳しくし、読み札を完成させる。
- ⑤小学生が、④の文に合うように②の絵に付け加えて、絵札を完成させる。
- ⑥幼稚園に送る。
- ⑦カラスキャンをして、プリントアウトしたもので
それぞれカルタ遊びをする。
- ⑧お礼の手紙や感想の交流をする。



【全校種・全学年】

※「MIM-PM」等にも取り組みながら、特殊音節等、正しい語の読みから流暢性を高める。

学習ゲーム・活動例1「いいね!ゲーム」

テーマに対して、リズムに乗って順に答え、それに周りが「いいね!」と返すゲーム

○目的・効果

- ・「何を言っても大丈夫」という、意見を言いやすい雰囲気を作る。
- ・何度も順番が回ってくるため、自分の中の言葉が増える。
- ・テーマによっては、相互理解を深める機会になる。

○進め方とルール

- ① 3～4人程度のグループをつくる。
- ②最初に答える人を決め、(反)時計回りに答えていく。
- ③リズムに乗れなかったり、答えが出てこなかったりしたらアウト。



学習ゲーム・活動例2「ぴったりスピーチ」

30秒、1分、3分といった限定された時間の中で、自分の伝えたいことを伝える活動

○目的・効果

- ・自分の話量や時間感覚に関心を持ち、見つめ直す機会となる。
- ・話の構成を考えるようになる。

○進め方とルール

- ①時間を指定する。(教師が指定する/話す児童生徒自身が指定する)
- ②決められた時間内でスピーチをする。(タイマーを見る/見ない)
- ③自他のスピーチを聞き、活動を繰り返す。



【主に低学年以上】

学習ゲーム・活動例3「むしくいことば ～ちいさい「や」「ゆ」「よ」～」

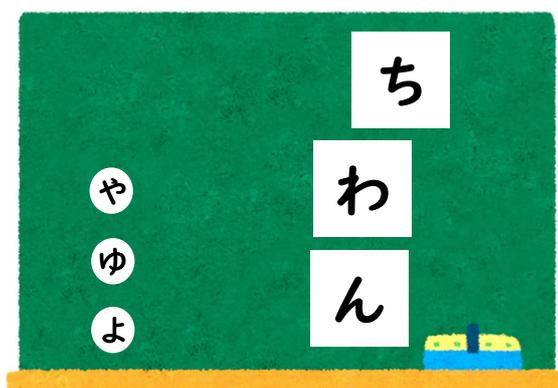
拗音を入れて、ことばを作る活動

○目的・効果

- ・拗音の小さい文字(「や」「ゆ」「よ」)のどれをどこに入ればよいかを言うことができる。

○進め方とルール

- ①黒板に拗音を抜かした状態で文字カードを貼る。
(例:「ち わ ん」)
- ②拗音の小さい文字カードも掲示し、どこにカードを入れるとことばができるかを伝える。
- ③子どもたちに、何の言葉ができたかを聞き、実際に呼んだ後に絵カードで確認する。
- ④様々な言葉で繰り返す。
- ⑤聞いていて「なるほど」と思ったスピーチを選ぶ。



学習ゲーム・活動例4「どっちが好きスピーチ」

2つのものを比べ、どちらが好きか理由を伴わせてスピーチをするゲーム

○目的・効果

- ・聴き手に分かりやすく説得的に話す力をつけることができる。

○進め方とルール

- ①どちらが好きか比べるテーマを提示する。
- ②テーマについて、スピーチする内容を考える。(2分)
- ③グループでどっちが好きスピーチをする。(1人1分)
- ④聞いていて「なるほど」と思ったスピーチを選ぶ。

学習ゲーム・活動例5「よってたかって質問ゲーム」

グループで1人に対して、残りの人たちで質問をしていくゲーム

○目的・効果

- ・質問をする力、掘り下げる力、チームで協力する力を鍛えることができる。
- ・相互理解を深める機会になる。

○進め方とルール

- ① 4～5人のグループをつくり、質問に答える人を1人決める。
- ② 残りの人が、順番に質問する。
- ③ 全員が質問したら、答える人を替えて、②を行う。
- ④ 全員が質問に答えるまで続ける。

学習ゲーム・活動例6「聞いて作ろう！クイズ大会」

読み聞かせやスピーチを聞き、聞いた内容に関するクイズを作り、出し合うゲーム

○目的・効果

- ・集中して考えながら聞く癖がつく。
- ・クイズを1つに絞ることで、合意形成の機会となる。

○進め方とルール

- ① 教師の読み聞かせや友だちのスピーチを聞き、クイズを考える。
- ② ペアやグループでクイズを出し合う。
- ③ グループ内で一番難しいと思われるクイズを決め、クラス全体に出題する。

【主に中・高学年以上】

学習ゲーム・活動例7「メリット（デメリット）NO.1」

より説得力のあるメリット・デメリットを理由とともに伝えるゲーム

○目的・効果

- ・物事を多面的に捉え直す機会になる。
- ・より説得力のある理由や伝え方を考える機会になる。
- ・情報を比較・精選する機会になる。
- ・ディベートマッチにおける立論作成の素地となる。

○進め方とルール

- ① テーマを決めてできるだけ多くのメリット（デメリット）を書き出し、全体で共有する。
- ② その中から一番説得力のあるものを選ぶ。
- ③ できるだけ異種の組み合わせのグループをつくり、1分間のスピーチを行う。
- ④ 聞いていて「なるほど」と思ったスピーチを選ぶ。

学習ゲーム・活動例8「なぜ・なぜならゲーム」

お互いに質問し合いながら2人で会話を続けていくゲーム

○目的・効果

- ・「根拠」を考えたり、習慣にしたりする機会になる。
- ・自己理解を深める機会になる。
- ・瞬時に反論しないといけないため、論理的思考力を鍛えることができる。
- ・相手の言葉を引用させると、聞く力や質問力を鍛えることができる。

○進め方とルール

- ① ペアをつくり、質問する側と答える側を決める。
- ② 「〇〇は好きですか？」という質問でスタートする。
- ③ 制限時間が来るまで、「なぜ？」「なぜなら」と質疑応答を繰り返す。
- ④ 質問ができなくなったり、答えられなくなったりしたらアウト。

学習ゲーム・活動例9「反論でファイト」「でもでもボクシング」

お互いに反論しながら2人で会話を続けていくゲーム

○目的・効果

- ・相手の話をしっかりと聞かないといけないため、聞く力を鍛えることができる。
- ・瞬時に反論しないといけないため、論理的思考力を鍛えることができる。

○進め方とルール

- ①ペアをつくり、最初に話す人を決める。
- ②先攻が最初に言う「出だしのコメント」を与える。
(例)「夏は暑くて嫌ですね。」「大きな家に住みたいですね。」「冬のマラソンは辛いですね。」等
- ③それに対して、「そうですね。でも～」と反論する。
※必ず「そうですね」と相手の考えを受容することがポイント。
- ④そのコメントに対して、もう一人が「そうですね。でも・・・」と反論する。
- ⑤制限時間まで続け、次を言えなくなったらアウト。時間が残っていたら再度チャレンジする。

学習ゲーム・活動例10「引用質問ゲーム」

しりとりと同じ要領で、相手の言葉を引用して話をつなげていくゲーム

○目的・効果

- ・話を正確に聞き取ろうと集中して聞くようになる。
- ・質問力、即興力が鍛えられる。
- ・会話を続けさせるコツが分かるようになる。

○進め方とルール

- ①2人組をつくる(審判を入れる場合は、3人組)。
- ②目標時間を決める(1分間、3分間など)
- ③じゃんけんをして、どちらが先に始めるかを決める。(出だしの文章を決めてもよい)
- ④慣れてきたら、「NGワード」や「NG動作」等を入れてもよい。
- ⑤活動をふり返る。

例：「昨日買い物に行ったよ。」→「買い物で何を買ったの？」

「お肉を買ったよ。」→「お肉が好きなの？」

「うん。お肉はお父さんも好きだよ。」→「お父さんは他に何が好きなの？」



学習ゲーム・活動例11「なりきりインタビュー 物の編」

身の回りにある「もの」になりきってインタビューを受けるゲーム

○目的・効果

- ・ものになりきってその役割や気持ちを想像する力を育てる。
- ・相手(もの)に関心を持って質問する力を育てる。

○進め方とルール

- ①インタビューする人とされる人を決める。
- ②インタビューされる人が名刺カードの中から1枚ひき、「私は〇〇です」という。
- ③それを聞いてインタビューする人が、「〇〇さん、どんな時に嬉しくなりますか？」などインタビューをする。
- ④インタビューされる人は、そのものの気持ちを想像して答える。



学習ゲーム・活動例12「無人島サバイバルゲーム」

限られた条件の中で必要なものを理由とともに伝えるゲーム

○目的・効果

- ・なぜその物が必要なのかを分かりやすく説明する力を育てる。
- ・互いの考えを比較しながら、よりよい理由を考える力を育てる。

○進め方とルール

- ①無人島で生活する上で3つだけもっていてもよいものを個人で決める。
- ②グループで意見を出し合い、グループの意見として3つに絞る。
- ③グループごとと比較し、より説得力のあったものを決める。



学習ゲーム・活動例 13 「ビブリオバトル」

おすすめの本を紹介し合い、一番興味・関心を持った本を決めるゲーム要素のある学習活動。

○目的・効果

- ・本を紹介し合うことを通して、読書に対する関心を高め、読書活動を推進する。
- ・相手を意識した「伝え方」「文章構成力」など、言語能力、プレゼンテーション能力を高められる。

○進め方とルール

- ①おすすめの本を決定する。
- ②紹介原稿を作成する。
- ③グループ内で順に本を紹介する。
(2～5分：実態に応じた時間設定)
- ④互いの紹介について感想交流する。
- ⑤一番興味・関心を持った本を選ぶ。
- ⑥指導者が価値づける。



(「文章構成」「伝え方・聴き方」「コメント力」「非言語(表情・うなずき等)」など)

【主に中学生】

学習ゲーム・活動例 14 「私にとって〇〇とは」

与えられたお題について自分とのつながりを即興でスピーチするゲーム

○目的・効果

- ・与えられたお題に関連したスピーチをその場ですぐにまとめて発表する力を育てる。
- ・お互いのスピーチを聞き、共感を示しながら聞く姿勢を身に付ける。

○進め方とルール

- ①グループの代表者を決める。
- ②担任の先生から、お題が出される。
(例) あなたにとって自動販売機とは？
- ③お題が出された5秒後から30秒間、お題と自分とのつながりをスピーチする。
- ④内容に関わらず、最後まで話そうとし続けた友だちを賞賛する。



学習ゲーム・活動例 15 「プロコン作文コンテスト」

テーマに対して、賛成・反対の両面から作文し、ベスト1を決める活動

○目的・効果

- ・多面的な思考方法に慣れる。
- ・意見を決められた字数以内でまとめる力がつく。
- ・意見の多様性に気づき、合意形成を図る機会となる。

○進め方とルール

- ①4人組をつくる。
- ②表の中央に、友だちの意見を聞きたいテーマを書く。
(教師がテーマを4つ決めておいてもよい)
- ③賛成1マス・反対1マスに意見を80字以内で書く。
- ④シートを順番に4人全員に回し、4人の賛成・反対でマスを埋める。
- ⑤それぞれの意見のベスト1を決める。
(テーマが同じ場合は、クラス全体での検討も可能)

賛成4 生徒D 記入場所	反対1 生徒A 記入場所	反対2 生徒B 記入場所
賛成3 生徒C 記入場所	テーマ 「(例)職業体験をする ことについて」 あなた自身の意見と 関係なく、自分の意見と 賛成の意見を1つ ・反対の意見を1つ 80字以内で書きましよう。	反対3 生徒C 記入場所
賛成2 生徒B 記入場所	賛成1 生徒A 記入場所	反対4 生徒D 記入場所

学習ゲーム・活動例 16「ことわざスピーチ」

正反対のことを述べていることわざに対して、その根拠を戦わせる活動

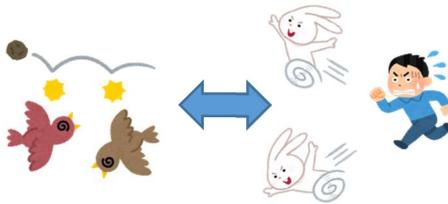
○目的・効果

- ・根拠を丁寧に説明できるようになる。
- ・説得力のある根拠について考えを巡らせ、工夫することができるようになる。

○進め方とルール

- ① 3人もしくは5人のグループをつくる。
- ② 2人が正反対のことわざについて、自分の方が優れているわけを、審判にアピールする。
- ③ 残りの人がジャッジする。
- ④ 役を一つずつずらして、同様に進める。

《正反対の意味を持つことわざの例》



「急がば回れ」⇔「先んずれば人を制す」
「一石二鳥」⇔「二兎を追うものは一兎をも得ず」
「蛙の子は蛙」⇔「鳶が鷹を生む」
「果報は寝て待て」⇔「まかぬ種は生えぬ」
「渡る世間に鬼はなし」⇔「人を見たら泥棒と思え」
「二度あることは三度ある」⇔「三度目の正直」
「嘘つきは泥棒の始まり」⇔「嘘も方便」

学習ゲーム・活動例 17「反駁ドリル」

課題文に出てくる人物に対して、どう反駁するかを考え交流する活動

○目的・効果

- ・「反駁するために読む」という理由が明確であるため、読解力がつく。
- ・論理的に反駁することに慣れ、さらに活動しながら論理的思考力も鍛えられる。
- ・理由とともにジャッジする練習になる。

○進め方とルール

- ① 課題文を読み、まずは個人で反駁を考える。
- ② グループで交流し、そのグループの反駁を決める。
- ③ どの反駁が一番納得できるかを個人でジャッジする。
- ④ 全員のジャッジを基に、その課題文のナンバー1反駁を決め、納得した理由を交流する。

課題文例 1

日曜日の朝、近所の空き地で元気よく野球の練習をしていたら、近所のおじさんに「うるさいから静かにしてくれ」と言われた。そこで僕たちはなるべく大きな声を出さないようにして練習を続けた。しばらくすると、資源回収車が「ご家庭でご不要になりました自転車などがありましたら…」という大きな声をスピーカーで流しながらゆっくりと走ってきた。これを見て僕はおかしいと思った。「大きい声を出している」のは同じなのに、僕たちは注意され、資源回収車は注意されなかった。「大きな声」が駄目ならば、同じように注意してほしい。

「反論の技術・実践資料編—学年別課題文と反論例—」香西秀信（明治図書 2008）より

課題文例 2

ぼくは、卓球のスポーツ少年団に入っている。この間の日曜日は、ぼくにとって初めての卓球の試合だった。試合は八時半から始まる予定だ。ぼくはできるだけ急いで会場に向かったが、渋滞に巻き込まれて遅刻してしまった。あわてて会場にはいると、すでにぼくの不振敗が決まっていた。ぼくは泣きそうになりながら、遅れたわけを話した。しかし、聞き入れてはもらえなかった。ぼくは一か月前にエントリーしているし、参加費も払っている。だから、ぼくには卓球の試合に出る権利があるのだ。それなのに、少し遅刻したぐらいで参加させないなんておかしいではないか。

「反論の技術・実践資料編—学年別課題文と反論例—」香西秀信（明治図書 2008）より

学習ゲーム・活動例 18「データマッチング」

説得力を高めるために必要な資料を選択し、選んだ理由を比較・吟味する活動

○目的・効果

- ・主張の説得力を高めるために使用する資料を批判的に考察し、情報選択能力（情報活用能力）の向上を図る。
- ・様々な情報に対して批判的思考力が養われる。
- ・説得力を高めるための情報選択能力（情報活用能力）が養われる。

○進め方とルール

- ①作成した立論と複数の資料（5つ程度）を提示する。
- ②説得力が増す資料を選択し、その理由を考える。
- ③立論内容の主訴と比較しながら、よりよい資料の選択・活用について共有する。

【例】

データマッチング

論題 救急車の利用を有料にするべきである。

私は、論題「救急車の利用を有料にするべきである」に肯定側の立場で立論します。起きるメリットは、「救える命が増える」です。なぜこのメリットが起きるのか説明します。

理由は「軽症者の通報を減らせる」ということです。通報者の多くは、入院等の必要のない「軽症者」が約半分を占めており、救急車を呼ぶ必要のない場合が多くあります。寝屋川での出動回数も年々増加傾向であり、このままだと、本当に必要な時に到着が遅れ、救える命も救えなくなってしまいます。中には、「蚊に刺されてかゆい」「病院でもらった薬がなくなった」など、安易に救急車を利用するケースもあるそうです。海外のデータからも、有料にすると通報件数が減らせるのは明らかです。

重要性を述べます。救急車は、一人でも多くの命を救うために、救急で出動するものです。そのため、できるだけ軽症かつ緊急時の低い事案についての通報を減らすことが重要です。以上の理由から、救急車の利用を有料にするべきであると考えます。

① 過去10年の救急車出動件数
(図は省略)

② 救急隊の写真
(写真省略)

③ 世界各国の救急車要請料金
(図は省略)

④ 救急出動の原因
(図は省略)

⑤ 救急搬送の症状別の割合
(図は省略)

寝屋川市教育委員会指導主事 自作データより

学習ゲーム・活動例 19「根拠 De サッカー」

テーマに対して相手が出してきそうな「根拠のシュート」を予想して、ブロックする活動

○目的・効果

- ・多面的・多角的に物事を捉える力をつける。
- ・テーマに対する考えを予想することを通して、多面的・多角的思考力が養われる。

○進め方とルール

- ①テーマに対して、それぞれの立場で考えられる根拠（理由）を付箋にまとめる。（1枚1内容）
- ②相手の根拠（理由）を予想して、付箋を3～5枚に絞る。
- ③攻撃側から1枚ずつ付箋を出し（シュート）、守備側に同じ観点の根拠（理由）があればブロック成功。
- ④攻守交代し、シュートが多く決まった方が勝利。（多面的・多角的に見られているということ）

(例)	テーマ	「夏と冬ならどちらがよいか。」
	夏（シュート）	<ul style="list-style-type: none"> ・海や川など、水遊びをする機会が多い。 → <u>花火大会がたくさんある。</u> ・夏休みがある。（休みが長い）
	夏（ブロック）	<ul style="list-style-type: none"> → <u>花火で彩られる。</u> ・セミ（虫）とりで楽しむ。

ブロック

(2) 多面的・多角的に考える思考を鍛える

六色ハット思考法

6色の色に応じて視点を変えながらアイデアを次々に出していく思考方法。

○目的・効果

- ・「聴く」「話す」「意見を調整する」というコミュニケーションの基礎を体験的に学ぶ。
- ・物事を多角的に考察し、アイデアを整理することができる。
- ・多面的・多角的に考える視点を身に付けることができる。

○進め方とルール

- ・それぞれの視点から、グループ内で時間を設定し、順に意見を出し合う。

白色帽子	事実のみ。統計（グラフ、表）や情報。コンピューターの役割。混じりっけのない真っ白なイメージ。
赤色帽子	感情や気持ち（好き、嫌いなど）。直観や山勘。理由はなくてよい。燃える炎と暖かさのイメージ。
黒色帽子	否定（反対）的な考え。なぜそう思うのか、理由が必要。厳しい裁判官の服装の色のイメージ。
黄色帽子	肯定（賛成）的な考え。なぜそう思うのか、理由が必要。太陽の色のイメージ。
緑色帽子	新しいアイデア。違った考え方。他に良い考え方はないか。新しい生命力を生み出す植物や草木のイメージ。
青色帽子	冷静に判断する力を持っている。司会者のような役割。空のイメージ。

《進行方法》

- ①【青色】話し合いの活動のゴールを明確にする。
- ②【赤色】テーマについて自分の考えを自由に出す。
- ③【白色】テーマについての事実、関連する情報を出す。
- ④【黄色】テーマに対して前向きな意見や提案を出す。
- ⑤【緑色】テーマや④の意見に対する新しいアイデアや違った考え方はないのか出す。
- ⑥【黒色】④⑤で出された意見に対し、否定的に考えることで内容を吟味する。
- ⑦【黄色+緑】出された提案の欠点や弱点を補強する。
- ⑧【青色】テーマ達成のための戦略を確定する。※各班の意見をまとめる。

《進行例》

青色 「今日は〇〇フェスティバルのクラスの出し物を決めましょう。『低学年も喜んでもらう出し物』がゴールです。みなさん、まずは赤色の立場で考えて下さい。」

※ここから時間を区切って、帽子の色ごとに話し合いを促していく。

赤色 「ぼくは迷路がしたいな。去年できなかったし。」「私は逃走中がいいな。楽しそう。」…

白色 「2年生の弟がいるんだけど、次はもっといい『点数』をとりたいと言っていたよ。」…

黄色 「『点数』をつけるなら、『本日の最高点』があると、もっとやる気も出てきそうだね。」…

緑色 「それだったら、例えば、迷路の中にクイズを取り入れることもできそう。色々なことを『組み合わせる』こともできそうだね。」

黒色 「低い点数になるとやる気がなくなるんじゃない。」「組み合わせると準備に時間がかかるよ。」…

黄緑 「クイズだったらみんなが解けそうな『簡単なもの』と『チャレンジ問題』を入れたらどうかな。」
「準備に関しては、メインはどちらにするか明確にしてから役割分担をすればいいんじゃない」

青色 「それでは、各グループでの結論を聞かせてください。」

(3) 実態に即して様々なディベートの形を段階的に行う

- ・前年度までの取組や子どもの実態に即して、柔軟に形を変える等して体験させていく。
- ・共通の資料を活用する。（「フローシート」「司会原稿」「スピーチシート」等）

ステップ1「立論型ディベート」

論題に対してより「強い」立論を作り合うディベート

○目的・効果

- ・より説得力のある立論の立て方が分かる（意見の強弱が分かる）。
- ・論理的思考力を鍛えることができる。

○進め方とルール

- ①論題に対して、肯定側はメリット、否定側はデメリットを10個ずつ出す。
- ②10個の中から、一番強い（説得力のある）ものを選ぶ。
- ③（準備型であれば）証拠資料を準備する。
- ④肯定側立論→肯定側へ質疑→否定側立論→否定側へ質疑
※質疑は審判と教師が行う。チーム一人一人に質問する。
- ⑤審判と教師が判定する。

ステップ2「反駁型ディベート」

（※反駁については(3)の反駁の四拍子を参照）

立論を教師がつくり、子どもたちがその立論に対して反論し合うディベート

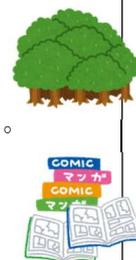
○目的・効果

- ・その場で出た意見に対して反駁するため、聞く力や即興力、対応力が鍛えられる。
- ・相手の意見のどこに反駁するのが明確になる。

○進め方とルール

（例）5年生の社会科「森林のはたらき」の学習で、簡単な反駁型ディベート（論題「日本の小・中学生は、学校にマンガの本を持ち寄って、マンガ図書館を作るべきである」）を行い、相手の意見をよく捉え、合意しない反論を重ねていくことを試みる。

学習活動例	指導上の留意点
1. 論題とディベートの進め方について説明を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・森林を保護するために紙の節約を考えると、論題のような主張があり、その是非を討論するという目的を明確にする。 ・ディベートの進め方を説明し、役割を知らせる。
2. 肯定側、否定側の意見を読み、そこにおける議論をとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・用意していた立論を読ませ、それぞれにおける議論を図式的に板書する。 肯定側意見：「読み捨てる本が減り、紙を節約できる。」 否定側意見：「マンガに熱中し、授業に集中できない。」 ※立論の文例は、「学級ディベート」菊池省三（中村堂2018）P.54 参照
3. それぞれの立場で、反駁の準備を行う。準備後、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・反駁は、相手の議論における理由の部分を否定しなければならないことを知らせ、ワークシートに記入させる。



ステップ3「立論事前提示型ディベート」

立論を事前に提示し、それに対する質問や反駁までを準備した状態で行うディベート

○目的・効果

- ・事前に質問や反駁を準備できるため、意見を述べやすくなる。
- ・事前に相手の回答や反駁を予想しやすくなるため、論理的思考の芽を育てることができる。
- ・相手の反応を予想する楽しさや、予想が当たる喜びを感じながらディベートができる。

○進め方とルール

（事前①）論題に対して、肯定側・否定側が立論を作成する。

（事前②）その立論を相手側に提示し、その立論に対する質問や反駁を考える。

- ①通常のディベートの流れで進める。
- ②ジャッジは質問及び反駁を重点的に視聴し、判定する。

ステップ4「マイクロディベート」

一人が同じ論題で全ての立場を経験できるディベート

○目的・効果

- ・すべての役割と立場を経験できることで、多角的に考えられるようになる。
- ・同じ論題で行うため、個人の考えを深めていくことができる。
- ・すべて一人で行うため、チームになったときに仲間の大切さを感じることができる。

○進め方とルール

- ① 3人でグループを作り、「肯定側」「否定側」「審判」を交代で経験する。
- ② 審判が理由とともにジャッジし、立場をローテーションする。
- ③ 立場が一周するまで同じ論題で行う。

ステップ5「ミニディベート」

子どもたちが考えやすい易しい論題を使って行うディベート

○目的・効果

- ・ディベートの流れをつかむことができる。
- ・与えられた立場で意見を考え、述べる練習ができる。
- ・相手の立場に立って考え、意見を聞いて考える練習ができる。



○進め方とルール

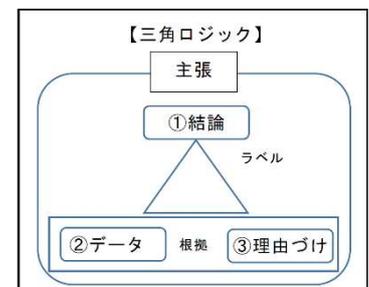
- ① 3～4人のグループをつくる。
※3グループ1組で、「肯定側」「否定側」「審判」を交代で経験する。
- ② グループ内で一人一人の役割を決める。
- ③ 相手の意見を予想しながら、それぞれのセリフを考える。
※導入期は、セリフ等が入ったワークシートを活用するとよい。
- ④ 実態に即して、「立論のみ」「質疑応答まで」「第一反駁まで」等を決めて行う。
- ⑤ 審判は、視点を明確にして判定するようにする。

(4) 説得力を生むための指導を取り入れる

①三角ロジックを使いこなそう

「三角ロジック」とは、「筋の通った主張」をつくる論理的思考力の基礎となる考え方のこと。かみ合った議論を行うためには、「結論」「データ」「理由づけ」の3つで議論を組み立てることが重要である。

- ① 結論 : 自分や相手の言いたいこと。意見
 - ② データ : 事実、数値、一度証明された主張、客観的な事実
 - ③ 理由づけ : 主張データをつなぎ合わせる考え方、判断基準
- ※データと理由づけの2つを総称して「根拠」とする。



(例)

- ① 結論 : 1年生と6年生の交流は「おにごっこ」がよい。(主張)
- ② データ : 1年生にアンケートをとると「おにごっこ」が一番人気であった。(事実)
- ③ 理由付け : 全員経験があり、楽しめる内容である。

ディベートでは、自分の主張を審判に納得させるため、「なぜ、そう言えるのか」という根拠が重要になる。三角ロジックを使えば、自分の主観で解釈した印象で論議することがなくなり、中身のあつ話し合いができるようになる。

②理由や根拠の伝え方を工夫しよう

- ・一文が長くなりすぎない
 - ・いくつあるのか言ってから (ナンバリング)
- ※根拠の数は少ないほど議論が深まることが多い。
※肯定否定ともに「2つずつ」等、数をそろえるとジャッジも判定しやすくなる。

- ・聴き手（審判や多くの人等）に伝わりやすい言葉に言い換える。
- ・資料（データ）の出典を示す
- ・引用の始めと終わりを伝える 等

資料の調べ方

<手段>

書籍、教科書（資料集）、インターネットサイト、アンケート 等

<留意事項>

- ・信憑性の高い情報かどうか、複数の資料を比較する。
- ・情報の出典（引用先）や年代も記載する。
- ・主張に必要な情報かどうか検討、判断する。

③質疑の目的を確認しよう

質疑の目的は説明や反論ではない。まずは「分からないことを聞く」という段階から、以下のように目的によって「～です(か)。」「～です(ね)。」を使い分けたり、反駁で指摘するための質問をしたりできるようにしていくとよい。その際、立論で述べられた内容について、質疑を行う。

質疑の目的

- ・相手の発言の不明な点を確認する。(～ですか。)
- ・後半の反駁の有利な点を引き出す。(～ですか。)
- ・反駁で指摘したい点を確認する。(～ですね。)
- ・相手の発言の矛盾点を明白にする。(～ですね。)



④「反駁の四拍子」を使いこなそう

反駁では、相手の立論（特に「理由」や「根拠」）や質疑での回答に対して、主に、以下のような4つの手順で反論を行う。

反駁の四拍子

- ① 引用 「～と言いましたが」
- ② 否定 「それは認められません」
- ③ 理由 「なぜなら、～からです」
- ④ 結論 「だから、～です」

④の結論では、自分たちの主張につなげるようにすることで、説得力が増す。また、相手の全ての主張に対して反駁できるとよい。(可能な限り)

(5) 教科指導との関連を考える

各教科の学習指導要領を基に、カリキュラム・マネジメントの視点を持って教科指導と関連付けていくことも必要である。

例えば、どの教科においても、

- ・「自分の意見（考え）を持つこと」
- ・「考えながら聞くこと」
- ・「自分とは違う立場（方法）でも考えること」
- ・「根拠を持って意見を述べること」
- ・「聞きながら書くこと（メモをとること）」
- ・「共感的/批判的に見ること」 等、

ディベートにつながる活動や、ディベートで鍛えた力を発揮する場面がある。

また、一人一台端末等の ICT 機器活用も、情報モラルの指導と関連付けながら進めることで、各教科とディベートをつなげるツールになると考えられる。(※「11. ICT の活用について」参照)

※他にも、各教科の中での話し合い活動を「ディベート的な話し合い」にすることで、根拠を持って意見を述べたり、質問や反論を受けたりして意見を成長させていくことができる。

こうした教科指導とディベートとの関連性を、教師が意識して指導することで、児童生徒の資質・能力のさらなる向上が期待できる。

(※巻末資料「各教科との関連を図った論題」参照)



国語 数学 算数
理科 社会 英語
外国語 保健 体育
保健体育 美術
図画工作 音楽 技術
家庭 道徳 生活

(6) “客観的”なディベートの前後で“主観的”に考える時間を持つ

・「ビフォーディベート」

論題について、主観的な意見を書く等、最初の自分の意見を表現する時間を設定する。

・「アフターディベート」

ディベートを終えて、以下のA～C等のことをふり返ることで、自身の考えの「深まり」や「よりよい変化」等に子どもたちが自覚的になる。そこから、「ディベートは意思決定や納得解を生み出すための一つの“プロセス”であること」「ディベートは物事を多面的・多角的に検証し、より深く考えるための方法の一つであること」に子どもたちが気づいていくきっかけとなる。

A. ディベートそのものの感想や反省（自己評価）

友だちについて（他者評価）

B. ビフォーディベートでの主観的な意見が

どう変わった/深まったか

（自分の意見の成長に目を向ける）

C. 第三の意見を考える

（Win-Winの最善解を探る）等

ディベートを終えて（アフターディベート）

◎ふりかえり

これからの学習やディベートで活かせることについて書きましょう。
（議のつなげ方や、グループでの関わり方、話し方・聞き方・書き方の工夫、データの調べ方・読み取り方など）

ディベートの私の担当だった立論で、発表する時に、いつもよりは、だいぶましだったけど、少し早くても何回も繰り返していたから、少し練習不足だったなと思いました。
そして、チーム内の話し合いは、たくさんできたと思うけど、データをもっと少し調べればよかったと思いました。

◎わたしの主張

肯定側・否定側の主張をふまえて、あなたはどうか考えますか。論題について自分なりの考えを200～250字でまとめましょう。

私は、「飲食店はわりばしの使用を廃止する」ことに

（賛成）反対です。なぜなら、

わり箸は日本産が少なく外国から輸入されているのがほとんどだから外国の森林がいくら多くてもずっとわり箸を使い続けているといつかなくなってしまう。そして木材はわり箸だけでなく家にも家具にも使用されています。食事にはわり箸でなくてもプラスチック箸で十分困らないです。だったら木材をわり箸ではなく他のものを作るのに使えて外国の森林を守れる方がいいと思います。

したがって、私は「飲食店はわりばしの使用を廃止する」（べきだ、べきでない）と考えます。

アフターディベートのワークシート例 及び 児童の記述
（石津小6年生のワークシートを基に作成）

<p>アフターディベート ～これまでにふりかえて～ 名前（ ）</p> <p>◎ディベートをふりかえる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・自分のこと（感想、反省、次にかんばりたいこと、友だちとも関わり方など）</p> </div> <div style="text-align: center; font-size: 48px; font-weight: bold; margin-bottom: 10px;">A</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・相手チームのよかった所について</p> </div> <p>◎自分の意見をふりかえる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・論題について（自分の意見がどう変わった、どう深まったのか）</p> </div> <div style="text-align: center; font-size: 48px; font-weight: bold; margin-top: 10px;">B</div>	<p>◎論題をふりかえる</p> <p>肯定側・否定側の主張をふまえて、論題について自分の意見をまとめましょう。 （新しい考え方や、最善解も考えられるといいですね）</p> <p>論題「するべきである</p> <p>私は、賛成・反対です。なぜなら</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; min-height: 200px; position: relative;"> <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); font-size: 48px; font-weight: bold; opacity: 0.5;">C</div> </div> <p>※この論題でのディベートを終えて、疑問に思ったことやもっと調べたいと思ったことを書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 40px; margin-top: 10px;"></div>
--	---

《項目ごとのアフターディベート展開例》

【A】ディベートを振り返る

- ①設定した目標（めあて）をもとに自分自身や友だちについて振り返ったことを記述させる。
- ②全体交流を行い、類別しながら板書する。
- ③「できるようになったこと」を指導者が価値づけ、「次の目標」を確認する。
- ④「できるようになったこと」が教科学習で活用・発揮されている場合は、その都度価値づけ、成長した自分をメタ認知させる。

【B】自分の意見を振り返る

- ①ビフォーディベートでの自分の考えからの「変容（逆転・広がり・深まり等）」について振り返ったことを記述させる。
- ②「逆転」「広がり」「深まり」のいずれかの意思表示をさせ、類別しながら板書する。
- ③自分の考えをさらに「更新」させる意見を問い、その理由も尋ねる。
- ④「意見を交流する」「考えを振り返る」ことの価値づけを行い、全教科の「話し合い活動」「振り返りの時間」にいかす。

【C - 1】論題を振り返る（第三の意見）

- ①ビフォーディベートでの自分の考えからの「変容（逆転・広がり・深まり等）」について振り返ったことを記述させる。
- ②「逆転」「広がり」「深まり」のいずれかの意思表示をさせ、類別しながら板書する。
- ③論題について、立場を超えた「よりよい在り方（プラン含む）」はないか問い返す。
- ④「ディベートを行う価値」を全体で共有し、全教科の「話し合い活動」にいかす。

※互いの意見の不足を補い合い、「納得解」「最善解」を導く建設的な話し合い活動

【C - 2】論題を振り返る（新たな探究課題の設定）

- ①ビフォーディベートでの自分の考えからの「変容（逆転・広がり・深まり等）」について振り返ったことを記述させる。
- ②「逆転」「広がり」「深まり」のいずれかの意思表示をさせ、類別しながら板書する。
- ③論題について、立場を超えた「よりよい在り方（プラン含む）」はないか問い返す。
- ④さらに解決すべき課題を含む「新たな問い」を全体で共有し、総合的な学習の時間及び各教科の学習に位置づける。

8. ディベートの論題について

○論題作成・設定のポイント

ポイント

- ①子どもの実態に即している
(教科指導・総合的な学習の時間との関連事項・身近な事象など)
 - ②肯定・否定側に主要な議論が複数存在する
 - ・教師が、観点の違う2つ以上の立論をすぐに思いつくような論題
 - ・双方同量の議論ができそうな論題
 - ③議論が広がりすぎない(中心課題が一つである)
 - ④参加者に関連のある(社会的な)事象である
 - ⑤資料を調査しやすい
 - ⑥中立な表現で書かれている
 - ⑦ディベートを終えるまで状況が変わらない
 - ⑧学習目標が達成される
- ※これらのポイントを、「逆向き設計(バックワード・デザイン)」や教員による模擬ディベートで吟味する。

○論題例

【価値論題例】

- ・「朝はご飯よりもパンの方がよい。」
- ・「電話より手紙の方が気持ちが伝わる。」
- ・「新聞よりテレビの方が情報を得やすい。」
- ・「勉強に有効なのは、予習より復習である。」

【政策論題例】

- ・「電車の優先席は廃止すべきである。」
- ・「救急車の利用を有料にすべきである。」
- ・「レジ袋はすべて廃止すべきである。」
- ・「宿題は、すべて自主学習にするべきである。」

※その他の論題例は、巻末資料「各校実施ディベート論題事例」参照

9. フローシートについて

ディベートは「聞くスポーツ」とも言われる。選手の立場であれば、相手の話をよく聞いて、かみ合った議論や反論を展開するためにメモをとる。審判や聴衆の立場であれば、判定を出すためにメモをとる。このように議論の流れ(フロー)を書きとる用紙(シート)がフローシートである。

よって、ディベートにおいてフローシートは、なくてはならないものである。ただし、児童の実態に応じたフローシートを活用することが重要である。(次ページ参照)



具体的な書き方の例

- ①関連する議論を矢印でつなぐ
立論から、質疑、反駁へと、横(もしくは縦)に展開していく。
その際に、対応する内容はそれぞれ矢印で順番につなげていくとわかりやすくなる。
- ②略語・符号を使う
例) メリット=M、デメリット=D、上がる・増える=↑、下がる・減る=↓、無くなる=× 等
- ③データなどの数値を優先して書きとる
証拠資料の中でよく出されるデータの数値は、正確に書きとらないと、正確な議論ができない。
(その他①) 納得した、説得力があると思った箇所に○をつけておく。
(その他②) 立論、質疑、反駁それぞれにおいてジャッジする(○をつける、点数化するなど)
(その他③) 学年によっては、話型を書いておく。

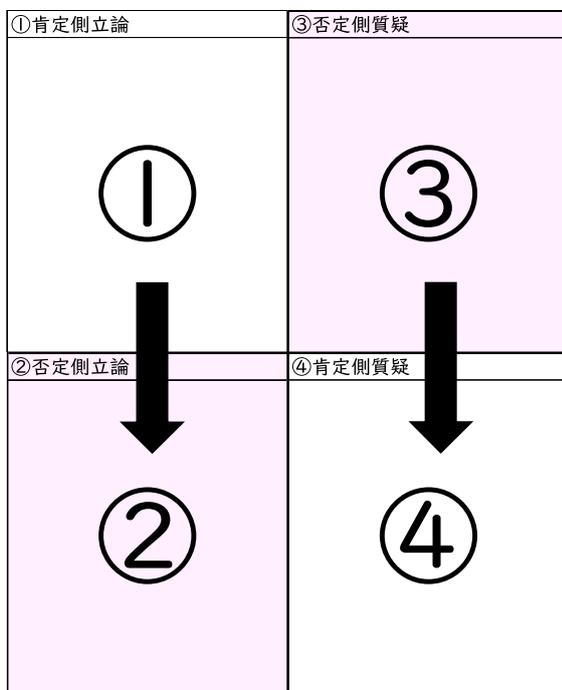
書き方指導の例

- ① モデルディベート（動画、先輩、教師等による）全部をフローシートにメモしながら視聴する。
- ② 肯定側立論の全文が印刷されたものを渡し、全てをメモする難しさや困り感を共有する。
- ③ 肯定側立論のみ視聴し、何が話されているか、何を聞き取りメモするべきか話し合う。
- ④ ③で話し合ったことを、否定側立論の視聴で実践してみる。
- ⑤ その後も「質疑のみ→反駁のみ…」というディベートの流れに沿って視聴し、書き方を確認しながら進める。
- ⑥ 視聴後、フローシートを基に、ジャッジをする。

**※ディベートマッチを繰り返すだけでは、「要点を聞き取る」「簡潔にメモをとる」力はつかない。
「適切な価値づけ（フィードバック）」と「目標（課題）の明示」を行うことが重要である。**

児童生徒の実態に応じたフローシートの活用例

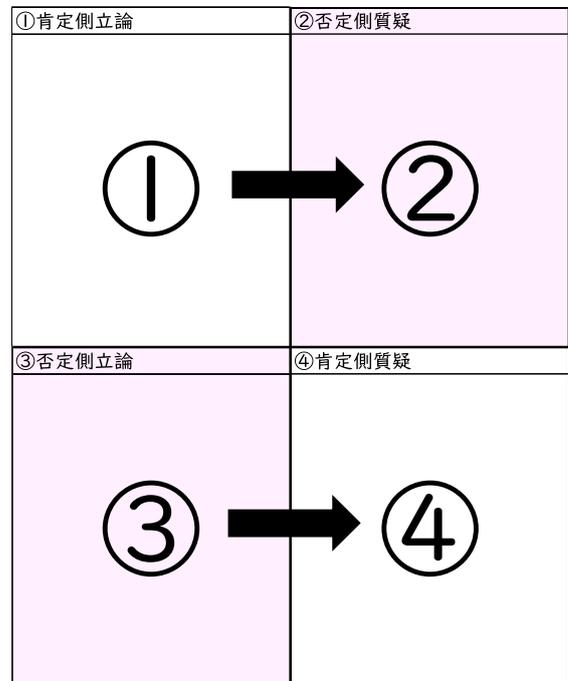
《立論→立論→（ジャッジ）→質疑→質疑…》



《メリット》

- ・立論、質疑、反駁等、「それぞれのパート（縦）の比較」がしやすい。
- ・各パートごとの判定がしやすい。

《立論→質疑→立論→質疑》



《メリット》

- ・立論、質疑、反駁の関連性など「議論（横）の流れ」を意識しやすい。
- ・立論から反駁まで一貫した主張がされているか判定しやすい。

※巻末資料「フローシート（記入用・記入例）」参照

その他各校が作成したのものも、「各校作成フローシート等」として共有

10. 板書について

板書は、主にフローシートと同じ枠を設け、教師もしくは係の児童生徒が書きとる。もしくは、教師や児童生徒のフローシートを拡大提示する。

これがないと、ディベート終了後に、その議論についてフィードバックすることができない。（「議論を聞かずに板書を見て書く子が多く、聞き取って書く意識を高めたい」等のねらいがある場合は、終了後に提示してフィードバックするなどの工夫が必要）

他の活用方法として、スペースにディベーターの資料を提示しておく方法や、主張の一文を短冊に書いて貼るといった方法も考えられる。



11. フィードバックの大切さについて

互いの考えの不足を補い合い、建設的な解決策を見出すために行う「言い認め合いのディベート」という観点から、勝敗を超えた「価値」についてフィードバックを行い、児童生徒の成長を促すようにする。

子どもたちが今回のディベートでよかったことや、次のディベートに向けて何を改善すればよいのかを明確にすることが重要である。8、9で示した「フローシート」「板書」への記述や、子どもたちの姿を基に、評価規準や本時のめあて等に沿って価値付けや次への展望を伝えることが望ましい。こうしたフィードバックを行うことで、ディベートの効果がより引き出される。

ここでは参考として、ある授業者の実際のフィードバックを、板書とともに記載する。授業者は、以下のような観点を持ってディベートマッチについてフィードバックしている（学校全体の取組）。

《主な観点》

- 情報選択含む論の構成等について

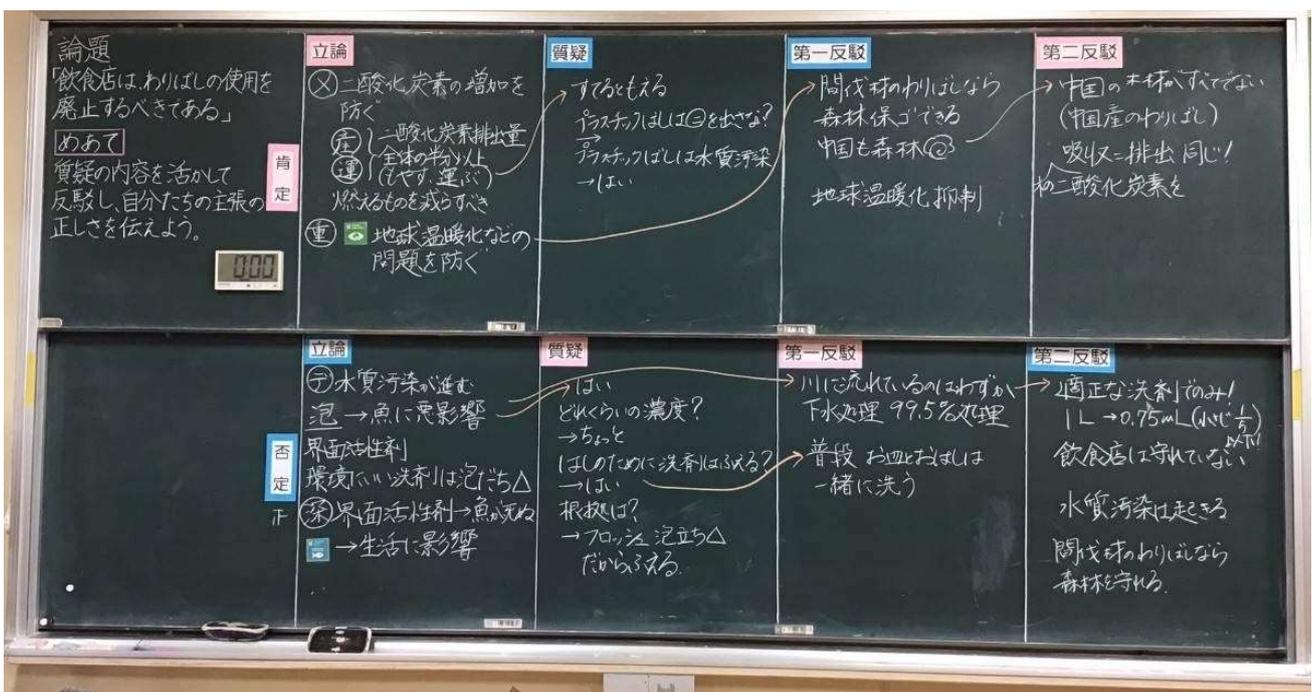
【①教科を超えた資質・能力に関わるもの】

- 議論の仕方について（反駁を意識した質疑内容、効果的な連続質問など）

【②ディベートに関わるもの】

- 積極的な参画について（役割の遂行、他者との関わり方など）

【③生き方・在り方に関わるもの】



小学6年 論題「飲食店は割り箸の利用を廃止するべきである」

めあて 質疑の内容を活かして反駁し、自分たちの主張の正しさを伝えよう。

(授業者フィードバック内容)

これまで同じ論題で取り組んできて、今回が4回目でしたね。一番レベル、高くなかったですか？両チームとも、他のチームの試合を見て、こんな論が来るんじゃないかと予想して、今回のディベートに挑んでいるからこそ、ここまでのディベートになったんだと思います。

↑積極的な参画について【③生き方・在り方に関わるもの】

まず結論から言います。先生も否定側が勝利だと思いました。理由を説明します。

第1反駁までは肯定側がかなり有利だと思っていました。質疑でも聞いたことをしっかり第1反駁で反論していた。ここがポイント高かったですよね。

ただ、第2反駁のところを比べたときに、否定側は、最後しっかり立論に戻っているんですね。水質汚染の話で、最後も水質汚染に戻ってきた。間伐材の話もどうかな、と思ったんですが、間伐材の割り箸なら森林も守れるし、二酸化炭素も減らせるような話の中で、相手の立論への反論も踏まえながら、自分たちの主張を押ししてきた。

↑議論の仕方について【②ディベートに関わるもの】

そしてここ。印象強かったですよね。写真があって、絶対家で使うとき、こんなに（洗剤）少くないよね、という、皆さんの経験につながるようなことがあったので、より納得して、こちら（否定側）がいいなという印象を持ったと思います。

↑情報選択を含む論の構成等について【①教科を超えた資質・能力に関わるもの】

こちら（肯定側）の第2反駁もよかったですね。やはり、最後、ここで自分たちが言いたかったこと、「二酸化炭素の増加を防いで、地球温暖化などの問題を防ぐ」というような結論をしっかりと残せたら、ここもつながりのあるものになったんじゃないかな、と思います。

↑議論の仕方について【②ディベートに関わるもの】

こういう理由から、先生は否定側を選びました。

(以下、菊池省三先生フィードバック内容)

本当ね、日本広しといえども、これだけのディベートができる6年生はいないですね。いや本当にそう思いました。とても勉強になった1時間でした。ありがとうございました。

めあてがあるんですね。それぞれの縦のつながりをしっかりやろうと。いろんな授業でも根拠を伴った意見を作る、議論を作るっていうのは大事ですよね。そうですね。これもできていますね。

「飲食店はわりばしの使用を廃止するべきである」。廃止したことによって、プラスチック箸を使うのかな。それで洗剤の水質汚染が進んでいくというデメリットが起きるということで、ちゃんと論題に合ったそれぞれの立場での縦のつながり、作っていますよね。

↑情報選択を含む論の構成等について【①教科を超えた資質・能力に関わるもの】

黒板全体見てください。横のつながり、今回の大きなめあての1つなのかな。ここ（立論）からずーっとここ（第2反駁）まで続いてくるんですよ。頭の中の「考える幅」が、この時（質疑）だけ、この時（反駁）だけを考えるんじゃないかと、幅がさうとう広がりますよね。そうですね。

普段の勉強ではないかもしれませんが、「議論が伸びる」と言うんだけど、あるいは「論をお互いが成長させ合う」と。それら全体を比較して、判定するんですね。それができている。縦も横も。なかなかいいですよ。（次ページへ）

(前ページより) ディベートは、予想することが楽しいですよ。相手がどう出て来るかって予想する楽しさが、ディベートの楽しさでもあるんですけど、とってもよくできていましたね。

だって質疑のところ「プラスチック箸は二酸化炭素出さないんですか？」って聞いているけど、これはきっと、「二酸化炭素が出る」というデータを持っていたから、前もってそこで聞いて、反論しようとしたんでしょね。ここもそうじゃないですか、ここも。

↑ 議論の仕方について【②ディベートに関わるもの】(全体)

それから、先生すごくびっくりしたこと見つけたんですけどいいですか。

(児童のフローシートを黒板に貼る) ○○さんのフローシート見てびっくりしたんですよ。

(質疑で) この話ありましたね。濃度。そしてここ(第一反駁)に来た。そしたらね、この○○さんのフローシートのピンクのペンで書いている矢印見てみて。

ここ(質疑)から、ここ(第一反駁)にちゃんと矢印が来てるんですよ。すごくないですか。横のつながりを、先生の黒板も参考にしながら、自分でも考えてつないでいる。この線が出ているっていうのは、「めあて」を指さして)これじゃないですか？

「質疑の内容を活かして反駁し」っていうめあてがあってディベートしていて、こうやって審判の人がちゃんと書いている。すごくないですか？じゃあ○○さんに拍手を送ろうじゃないですか(全員拍手)。

↑ 議論の仕方について【②ディベートに関わるもの】(個人)

横に伸びていく、成長していく議論を自分で聞いて記録して、それを矢印でつなげて行って、どうなのかな、って考えている。

質疑から第一反駁へ相手の意見を予想して、準備している、肯定も否定も、やっぱりレベル上がっていますよね。そして、その横のつながりを、しっかりと聞き取って、判定に活かそうとする、審判の皆さんも、すごい「考えの幅」が広がって、伸びているなあ、と思ってびっくりしたんです。

↑ 議論の仕方について【②ディベートに関わるもの】(全体)

否定側が勝ちっていうことでしたけれど、最後1つだけ。皆さんすごいねえ。(第二反駁指さして)「飲食店は守れていない」って。論題は「飲食店は」って書いてあるんですよ。

「飲食店は」って決めると考えやすいけれど、決めたら決めたでそのデータ集めるの大変ですよ。難しいよね。皆さん本当に難しいことやってるから、先生も作戦タイムの時に、改めてわりばしの使用についてネットで調べたんですよ。デメリット。

↑ 情報選択を含む論の構成等について【①教科を超えた資質・能力に関わるもの】

読んでみるね。ネット情報ではですよ。

「わりばしを洗うという新たなオペレーションの増加で、現場への負担が増える」

「同様に、傷んだ箸を取り除いたりする負担が飲食店では増える」

ずーっと論題からつながって行って、わりばしについて議論していったから、こうやって一般的な人々が「どっちかな」「あっちかな」って考える、そういうところにまで、考えが広がっていったんでしょね。社会的な問題ですね。皆さんの中から考え続ける人が出てくるんでしょね。だから、こうした学びを丁寧にやって、勉強に意欲的に向かっている6年生の皆さんの1時間を見せてもらって、本当に楽しかったです。これからまた、スーパースターに向けて、頑張っていくてください。

↑ 積極的な参画について【③生き方・在り方に関わるもの】

②だけでなく、①や③の観点があることが重要である。

1回のディベートマッチですべてを伝えなければならないわけではないが、取組を通して①～③をバランスよく伝えていくことで、

「ディベーターを育てるのではなく、自律した個を育てる」

「自律した個を増やすことで、集団を育てる」

ことを目指したい。



12. ICT の活用について

ディベートにおいても、一人一台端末等の ICT 機器を効果的に活用することで、より深い議論や思考の手助けとなる。(児童生徒の発達段階に応じて、活用方法を考える)

活用例

(ディベートマッチ以外での活用)

- ・ 情報収集
- ・ 児童生徒間での情報共有
- ・ シンキングツールによる論理構築 (KJ 法、バタフライチャート等)



(ディベートマッチにおける活用)

- ・ 立論時等での資料提示や立論自体の配布
- ・ ジャッジの判定と理由をロイロノートで提出・共有
- ・ ディベートマッチの様子を撮影し、フィードバック時に価値づけ
- ・ 板書を撮影し、次回のディベートマッチに活かす

等

13. ディベートの評価について (参考資料)

ディベートにおける評価は、「話し合うこと」の視点や、「ジャッジ」の視点と関連付けることが有効である。

※小学校3年生までの学年でも、こうした視点を意識し、4年生以降につなげる意識が大切である。

【“話し合うこと”の視点】(例①)

「話し方」「聞き方」等は、ディベートのジャッジの視点には含まれないが、こうした話し合いの基礎的な力が、ディベートを充実したものにするという観点から、ここに記載する。

※以下、小学校国語教科書(光村図書)「〇年生で学んだこと」

中学校国語教科書(光村図書)『学習の窓』一覧

を基に作成



学年	「話すこと」に関する各学年における学び
小1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞きやすい大きさの声と速さで話す。 ・ 思ったこととそのわけを言う。
小2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き取りやすい声の大きさや、話す速さを工夫する。 ・ 相手に正しく伝わるように話す。
小3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたいことに合わせて、声の強弱や話す速さなどの工夫を考える。
小4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 声の大きさや間の取り方資料の見せ方に気をつけて、大事なことが伝わるように話す。
小5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の示し方や話し方、言葉の選び方を工夫して、説得力のある話をする。
小6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き手の反応を確かめながら、話し方や表現を工夫する。
中1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き手の反応を見ながら、話し方を工夫する。 → 声の大きさや発音 → 話す速さや間の取り方 → 視線、表情、身振り手振り → 聞き手を巻き込む話し方(呼びかけや問いかけ)
中2	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーションソフトやフリップなどを活用して、視覚的にも伝わりやすくなるよう工夫する。 ・ 原稿を読み上げるのではなく、相手の反応を見ながら話す。
中3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 声に熱意や感動を乗せて話す。 ・ 聞き手の反応を確かめながら、状況に応じてわかりやすい言葉に言い換えたり、補足したりする。 ・ 会場の規模や人数を踏まえて、声の大きさや資料の提示方法などを考える。

学年	「聞くこと」に関する各学年における学び
小1	・もっと知りたいことを聞いたり、思ったことを言ったりする。
小2	・聞いたことの中から、大事なことをメモする。 ・質問して相手の考えを引き出す。
小3	・話す中心に気を付けて聞き、どのように質問するとよいかを考える。
小4	・目的と必要なことを考え、要点を短い言葉で書くなど、メモを取りながら聞く。
小5	・聞きたいことを明確にし、話す人の目的を考えながら、聞いたりたずねたりする。 ・話を記録してまとめる時は、やり取りを正確に聞いて、要点をメモにとる。
小6	・話し手が、目的や話題に沿って意見を述べ、その理由や事例として適切なものを挙げているかどうかを確かめる。
中1	・相手の話に耳をかたむけ、相づちを打ったりうなずいたりしながら、誠実な態度で聞く。 ・相手が答えやすいように質問のしかたを工夫する。 →「はい」「いいえ」で答えられる質問から、自由に答える質問へと展開する。 →相手の言葉を引用して質問したり、話の内容を言い換えて相手の意図を確かめたりする。
中2	・相手の話に耳を傾け、誠実な態度で聞く。 ・一つ一つの情報の結び付きに注意し、話の要点や全体像を考えながら聞く。 ・相手が答えやすいよう、明確で具体的な質問を心がける。 ・一問一答で終わらないよう、相手の話を受けて、さらに話を広げたり深めたりする質問をする。 ・用意した質問をすることにとらわれず、相手の話を聞きながら生まれた疑問や感想を大切にす。
中3	・相手の立場に立って考え、誠実な態度で聞く。 ・話の内容を自分の知識や経験などと結び付け、展開を予測しながら聞く。 ・用意した質問にとらわれず、話の流れの中で臨機応変に質問する。 ・相手の人柄や価値観にも迫れるように、さまざまな角度から質問する。

学年	「話し合うこと」に関する各学年における学び
小1	・はなしたり、きいたり、はなしあったりして、気がついたことを伝え合う。
小2	・友達の考えを聞いて、自分の考えと同じ所や違う所を見つけたり、思ったことを話したりする。
小3	・目的と決めること、役割、進め方を確かめ、互いの考えを認めながら話し合う。 ・どうやって決めるかを意識して、出た意見の同じ所や違う所を整理しながら、考えをまとめる。
小4	・目的と議題、役割、進め方を確かめ、出された意見を整理しながら話し合う。 ・自分の考えとその理由を明らかにして、発言したり質問したりする。 ・整理した意見の中から、目的と決め方に合わせて、結論を出す。
小5	・たがいの考えのよい所や問題点を比べて、どちらに説得力があるかを考える。 ・進行計画に沿って話し合い、質問を通して考えを広げ、条件に沿って考えをまとめる。
小6	・自分の考えと比べる、共感したり納得したりできる点を取り入れるなどして、考えを深める。 ・自分の主張や理由、根拠を明らかにして話し合いにのぞむ。 ・考えを広げる話し合いと、まとめる話し合いをくり返して、結論に向かう。
中1	・話し合いの目的や話題を常に意識し、展開に沿って話したり聞いたりする。 ・それぞれの意見の共通点や相違点に着目し、整理する。 ・結論を出すときは、複数の意見を結び付けて、考えをまとめる。
中2	・複数の情報や客観性の高い情報を根拠にして、意見を述べる。 ・相手がどのような根拠を基に意見を述べているのかに注意して聞く。 ・互いの考えの共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて発言する。
中3	・話し合いの目的を意識し、観点に沿って意見や提案を絞り込む。 ・自分の意見や一つの見方に固執せず、柔軟な態度で話し合う。 ・互いの意見の長所を生かして、よりよい結論になるよう協力する。

【“話し合うこと”の視点】(例②)

		小学校			中学校	
		低	中	高	前	後
話すこと	相手の話を受け、話題に合わせて話す。	◎	○	○		
	伝えたい事柄を整理して話す。		○	○	○	
	絵や掲示物などを活用して話す。	○	○	◎	◎	
	根拠や例の言い方に注意して話す。		○	◎	◎	
	事実と意見を区別して話す。			○	○	◎
	対立する立場の意見をとらえ、反駁する。			○	○	◎
	効果を考えて話の構成を工夫する。			○		◎
聞くこと	細部にわたる事柄について聞き分ける。			○	◎	
	事象と感想・意見との関係を考えながら聞く。		○	◎	◎	
	話の内容と自分の生活や意見とを比較しながら聞く。		○	○	◎	
	主張とそれを支える根拠との関係を考えながら聞く。		○	◎	◎	◎
	複数の発言の共通点と相違点とを区別して聞く。			◎	◎	◎
	話の内容の不足している点を考えながら聞く。			○	○	◎
	他の情報と比較しながら聞く。			○	◎	◎
話の内容に対して、反論しながら聞く。				◎	◎	
書くこと	聞いた内容をメモに整理する。		○	◎	◎	
	論のつながりがわかるように書く。			○	○	○
その他	自分の役割を理解する。	○	○	◎	○	
	グループで協力して、意見を組み立てる。		○	○	◎	
	話し合い全体の内容をまとめる。			○	◎	◎

【“ジャッジ”の視点】(例)

		小学校			中学校	
		低	中	高	前	後
主に立論	立論の根拠が正しく、確実なものであったか。	△	○	◎	◎	◎
	証拠資料(データ)はあったか。	△	○	◎	◎	◎
	証拠資料(データ)は最新のものであったか。	△		○	○	◎
	資料や事実を、出典を明らかに示していたか。	△	○	○	○	◎
	事実と解釈を正しく認識し、適切に使っていたか。	△		○	◎	◎
	伝え方に工夫があったか。	△		○	○	○
主に質疑	相手側立論の弱点(不確実な点)をつけていたか。	△		○	○	◎
	質問に対する応答が適切であったか。	△	○	○	◎	◎
	相手の言葉を引用して質問ができていたか。	△	○	○	◎	◎
	反駁につながる質問ができていたか。	△		○	○	○
主に反駁	相手の言葉を引用して反駁ができていたか。	△		○	○	◎
	相手の主張の認められない点を、根拠を示して指摘できていたか。	△			○	○
その他	全体をふまえて結論をうまくまとめていたか。	△		○	○	◎
	一人ひとりが積極的に参加していたか。	△	◎	◎	◎	◎
	チームとして協力し合っていたか。	△	◎	◎	◎	◎
	感情的になったりせず、態度・話し方は適切であったか。	△	○	◎	◎	◎
	最後まであきらめず、自分の役割を果たそうとしていたか。	△	◎	◎	◎	◎

すべてを一度に評価するのではなく、上記の視点を参考に、各校・各学年が、児童生徒の課題や実態に合わせ、追加/削除したり修正したりして評価を考えていくことが大切である。

【ジャッジシート（例）】

●各観点を数値で総合的に判断するジャッジシート

ディベート ジャッジシート テーマ: _____

月 日

判定：この試合は（ 賛成側 ・反対側 ）の勝利

年 組 番 名前 _____

賛成側(肯定側)		合計		反対側(否定側)		合計
ある	5 4 3 2 1	ない	①立論の説得力	ある	5 4 3 2 1	ない
納得できる	5 4 3 2 1	納得できない	②立論のデータ	納得できる	5 4 3 2 1	納得できない
ある	5 4 3 2 1	ない	③質疑の的確性	ある	5 4 3 2 1	ない
返答できている	5 4 3 2 1	返答できていない	④応答の適切さ	返答できている	5 4 3 2 1	返答できていない
相手の立論を崩した	5 4 3 2 1	崩せなかった	⑤第一反駁	相手の立論を崩した	5 4 3 2 1	崩せなかった
相手の立論を崩した	5 4 3 2 1	崩せなかった	⑥第二反駁	相手の立論を崩した	5 4 3 2 1	崩せなかった
協力していた	5 4 3 2 1	協力していなかった	⑦班の協力	協力していた	5 4 3 2 1	協力していなかった
適切である	5 4 3 2 1	適切でない	⑧聞く態度・話し方	適切である	5 4 3 2 1	適切でない
良い点			評価	良い点		
改善点				改善点		

①立論の内容が根拠やデータをもとに主張できているか。主観だけの場合はマイナス

②立論に出典（どこから引用したか）を主張できているか

③④質疑：質問が的確にできているか。応答：相手の質疑にきちんと返答できているか。データを用いれば高得点。

⑤⑥第一反駁：相手の主張の弱点をつき、相手の立論を崩せたか。第二反駁：自分たちの意見を主張しながら立論を崩せたか。

●観点を絞り、論理の一貫性を比較・判断するジャッジシート

ジャッジの観点		フローシート 名前 ()			
項目	心相ま手のな立が論ら効果的に反質疑応答の内容か。	論題：飲食店は、わりばしの使用を廃止するべきである			
		肯定 ①立論【2分】	否定→肯定 ②質疑【1分】	否定 ⑤第一反駁【1分】	肯定 ⑧第二反駁【1分】
		否定 ③立論【2分】	肯定→否定 ④質疑【1分】	肯定 ⑥第一反駁【1分】	否定 ⑦第二反駁【1分】
		肯定側			
否定側					



意見を成長させ合うことは楽しい

噛み合った議論は面白い



質の高い話し合いは楽しい



《参考資料》 ◆-----◆

- 菊池省三/菊池道場, 「学級ディベート」, 中村堂, 2018
- 菊池省三, 「菊池省三の話し合い指導術」, 小学館, 2012
- 菊池省三/池亀葉子, 「『話し合い力』を育てるコミュニケーションゲーム 62」, 中村堂, 2015
- 吉川芳則, 「話すこと・聞くことの活動アイデア 44」, 明治図書, 2019
- 池田修, 「中等教育におけるディベートの研究」, 大学図書出版, 2008
- 香西秀信, 「反論の技術・実践資料編ー学年別課題文と反論例ー」, 明治図書, 2008

《巻末資料》 ◆-----◆

- 「年間指導計画例（4年生～中学3年生）」
- 「ねやがわディベート 年間カリキュラム（例）」
- 「フローシート（記入用・記入例）」
- 「話型指導・活用の留意点」
- 「ねやがわディベート論題集」
 - ①各校実施ディベート論題事例
 - ②各教科との関連を図った論題（小学校）
 - ③各教科との関連を図った論題（中学校）

ディベート教育 言語能力育成 年間実施計画【例】(35時間)

回	日程	4年生	5年生	6年生
1	4月2週	オリエンテーション(話し合いの目的)	オリエンテーション(話し合いの目的)	オリエンテーション(話し合いの目的)
2	4月3週	コミュニケーションゲーム(関係性)	コミュニケーションゲーム(関係性)	コミュニケーションゲーム(関係性)
3	4月4週	コミュニケーションゲーム(関係性)	六色ハット思考法	六色ハット思考法
4	5月2週	立論勝負(説得力があるのはどっち?)	立論提示型D(②団を整理しよう)	立論提示型D(②団を整理しよう)
5	5月3週	立論勝負(実際に書いてみよう)	立論提示型D(立論を考えよう)	立論提示型D(立論を考えよう)
6	5月4週	立論勝負(比べてみよう)	立論提示型D(立論を完成しよう)	立論提示型D(立論を完成しよう)
7	6月1週	立論勝負(書き直してみよう)	立論提示型D(質・反を考えよう)	立論提示型D(質・反①②を想定しよう)
8	6月2週	立論勝負(グループ対抗戦)	立論提示型D(質・反を考えよう)	立論提示型D(質・反①②を想定しよう)
9	6月3週	行事作文(理由を3つ)	立論提示型D①(ジャッジは聴衆)	立論提示型D①(第二反駁まで)
10	6月4週	コミュニケーションゲーム(質問)	立論提示型D②(ジャッジは聴衆)	立論提示型D②(第二反駁まで)
11	7月1週	コミュニケーションゲーム(質問)	立論提示型D③(ジャッジは聴衆)	立論提示型D③(第二反駁まで)
12	7月2週	コミュニケーションゲーム(質問)	アフターD(GOOD・IMPROVE)	アフターD(GOOD・IMPROVE)
13	9月1週	質問してみよう(先生の立論に)	D-I論題(②団を考えよう)	行事作文(譲歩構文)
14	9月2週	質問してみよう(自分たち立論に)	D-I論題(立・質・反を考えよう)	反論をしてみよう(反論+主張)
15	9月3週	学級ディベート(理由を考えよう)	D-I論題(立・質・反を考えよう)	Dマッチ(②団を考えよう)
16	9月4週	学級ディベート(比べて質問しよう)	D-I論題(立・質・反を考えよう)	Dマッチ(立・質・反を考えよう)
17	10月1週	行事作文(問いかけ)	D-I論題(立・質・反を考えよう)	Dマッチ(立・質・反を考えよう)
18	10月2週	Dマッチ(KJ:メリットを考えよう)	Dマッチ①(第一反駁)	Dマッチ(立・質・反を考えよう)
19	10月3週	Dマッチ(KJ:メリットを比較しよう)	Dマッチ②(第一反駁)	Dマッチ(立・質・反を考えよう)
20	10月4週	Dマッチ(KJ:メリットを絞ろう)	Dマッチ③(第一反駁)	Dマッチ①(第二反駁)
21	11月1週	Dマッチ(理由を考えよう)	アフターD(GOOD・IMPROVE)	Dマッチ②(第二反駁)
22	11月2週	Dマッチ①(質問:全体・審判:先生)	D-I予選会	Dマッチ③(第二反駁)
23	11月3週	Dマッチ②(質問:全体・審判:先生)	中間ふり返り作文(抽象⇒具体)	アフターD(GOOD・IMPROVE)
24	11月4週	Dマッチ③(質問:全体・審判:先生)	ビブリオバトル①(ルール・モデル動画)	ビブリオバトル①(内容を構成)
25	12月1週	アフターD作文(理由3つ)	ビブリオバトル①(内容を構成)	ビブリオバトル①(伝える練習)
26	12月2週	作文交流(何ができるようになったか)	ビブリオバトル①(伝える練習)	ビブリオバトル①(班交流⇒代表者)
27	12月3週	コミュニケーションゲーム(反論)	ビブリオバトル①(班交流)	ビブリオバトル①(決勝戦:審判:全員)
28	1月2週	反論してみよう(先生の主張)	反論してみよう(第1反駁に対して)	即興型ディベート(先生-全員)
29	1月3週	反駁型D(KJ:②団を考えよう)	第二反駁を考えよう(11月作成内容)	即興型ディベート①(論理)
30	1月4週	反駁型D(KJ:立論を作ろう)	第二反駁Dマッチ①②③	即興型ディベート②(論理)
31	2月1週	反駁型D(KJ:立論を完成させよう)	ビブリオバトル②(内容を構成)	即興型ディベート③(論理)
32	2月2週	反駁型D①(質疑なし:審判は全員)	ビブリオバトル②(伝える練習)	アフターD(即興・論理構成について)
33	2月3週	反駁型D②(質疑なし:審判は全員)	ビブリオバトル②(班交流⇒代表者)	作文(ディベートの価値とは)
34	3月1週	反駁型D③(質疑なし:審判は全員)	ビブリオバトル②(決勝戦:審判-全員)	作文交流(互いの成長を認め合う)
35	3月2週	1年間の振り返り	1年間の振り返り	1年間の振り返り

※上記内容は【一例】であり、そのまま実施するだけでは十分な効果を得られない。

「児童の実態」と「ねらい」に応じ、柔軟に指導内容を考えることが重要である。

※上記内容は、「言語能力の育成」を主の目的として実施内容を構成したものであることに留意すること。

総合的な学習の時間のテーマと関連づけた論題を扱うことで、「認識」の深化・拡張を促すことができる。

ディベート教育 年間実施計画【例】(35時間)

◆中学校は「議論の質」を高め、論題に対する「認知の深化・拡張」を図ることを目的とする。

回	日程	中学1年生	中学2年生	中学3年生
総合のテーマ		防災学習	キャリア教育(勤労)	平和学習
1	4月2週	オリエンテーション(話し合いの目的)	オリエンテーション(話し合いの目的)	オリエンテーション(話し合いの目的)
2	4月3週	コミュニケーションゲーム(関係性)	コミュニケーションゲーム(関係性)	コミュニケーションゲーム(関係性)
3	4月4週	論題の背景を考える(現状-理想)	即興型ディベート①(第二反駁)	即興型ディベート①(第二反駁)
4	5月2週	立論提示型D(KJ法-②団を考える)	即興型ディベート②(第二反駁)	即興型ディベート②(第二反駁)
5	5月3週	立論提示型D(KJ法-②団を比較)	即興型ディベート③(第二反駁)	即興型ディベート③(第二反駁)
6	5月4週	立論提示型D(立論を考える-情報収集)	アフターディベート(論理構築)	アフターディベート(論理構築)
7	6月1週	立論提示型D(立論を考える-論理構築)	D-I論題(論題の背景を考える)	Dマッチ(論題の背景を考える)
8	6月2週	立論提示型D(質疑・反駁を考える)	D-I論題(KJ-②団を考える)	Dマッチ(KJ-②団を考える)
9	6月3週	立論提示型D(質疑・反駁を考える)	D-I論題(KJ-②団を比較)	Dマッチ(KJ-②団を比較)
10	6月4週	立論提示型D①(第二反駁)	D-I論題(情報収集)	Dマッチ(情報収集)
11	7月1週	立論提示型D②(第二反駁)	D-I論題(立論作成)	Dマッチ(立論作成)
12	7月2週	立論提示型D③(第二反駁)	D-I論題(立論勝負)	Dマッチ(立論勝負)
13	9月1週	1学期のディベート論点整理	D-I論題(1学期のディベートの論点整理)	Dマッチ(1学期のディベート論点整理)
14	9月2週	アフターディベート(論題について)	D-I論題(立の再構築、質・反の想定)	Dマッチ(立の再構築、質・反の想定)
15	9月3週	強化ワーク(立論 or 質疑 or 反駁)	D-I論題(立の再構築、質・反の想定)	Dマッチ(立の再構築、質・反の想定)
16	9月4週	新論題設定(アフターをもとに議論を深める)	D-I校内予選会①	Dマッチ①(第二反駁)
17	10月1週	D的な話し合い(自分の立場で情報収集)	D-I校内予選会②	Dマッチ②(第二反駁)
18	10月2週	D的な話し合い(自分の立場で論理構築)	D-I校内予選会③	Dマッチ③(第二反駁)
19	10月3週	D的な話し合い(全体交流)	D-I校内予選会④	アフターディベート(自身・論題について)
20	10月4週	アフターディベート(論題について)	D-I校内予選会⑤	新論題設定(アフターをもとに議論を深める)
21	11月1週	アフターディベート(全体交流)	アフターディベート(自身・論題について)	D的な話し合い(自分の立場で情報収集)
22	11月2週	ディベート参観(2年生)	代表者Dマッチ(1・2年生ジャッジ)	D的な話し合い(自分の立場で論理構築)
23	11月3週	即興型ディベート(モデルディベート)	D-I予選会	D的な話し合い(全体交流)
24	11月4週	即興型ディベート①(第二反駁)	企業プレゼン大会①(プレゼン資料作成)	ビブリオバトル①(内容を構成)
25	12月1週	即興型ディベート②(第二反駁)	企業プレゼン大会②(プレゼン資料作成)	ビブリオバトル②(伝える練習)
26	12月2週	即興型ディベート③(第二反駁)	企業プレゼン大会③(プレゼン原稿構成)	ビブリオバトル③(班交流▶代表者)
27	12月3週	アフターディベート(論理構築について)	企業プレゼン大会④(プレゼン原稿構成)	ビブリオバトル④(決勝戦:審判-全員)
28	1月2週	Dマッチ(②団を考える)	企業プレゼン大会⑤(リハーサル・ブラッシュアップ)	即興型ディベート①価値論題A(第二反駁)
29	1月3週	Dマッチ(役割ごとに立・質・反を考える)	企業プレゼン大会⑥(本番)	即興型ディベート②価値論題A(第二反駁)
30	1月4週	Dマッチ(役割ごとに立・質・反を考える)	企業プレゼン大会⑦(本番)	即興型ディベート③価値論題A(第二反駁)
31	2月1週	Dマッチ(チームで助言し合いブラッシュアップ)	企業プレゼン大会⑧(感想交流・振り返り)	即興型ディベート①価値論題B(第二反駁)
32	2月2週	Dマッチ①(第二反駁まで)	即興型ディベート①価値論題(第二反駁)	即興型ディベート②価値論題B(第二反駁)
33	2月3週	Dマッチ②(第二反駁まで)	即興型ディベート②価値論題(第二反駁)	即興型ディベート③価値論題B(第二反駁)
34	3月1週	Dマッチ③(第二反駁まで)	即興型ディベート③価値論題(第二反駁)	作文(ディベートの価値とは)
35	3月2週	1年間の振り返り	1年間の振り返り	1年間の振り返り(作文交流含む)

※上記内容は【一例】であり、そのまま実施するだけでは十分な効果を得られない。

「生徒の実態」と「ねらい」に応じ、柔軟に指導内容を考えることが重要である。

※データがない場合でも、「論理性」を重視して「論理構築する力」を育成するために即興型ディベートも取り入れる。

ねやがわディベート年間カリキュラム (例)

目標	学年	学級ディベートの具体的段階 (○番号：発言の順番)	4～6月	7～12月	1～3月		目指す姿																																									
					話し手としての成長	聞き手としての成長	話し手としての成長	聞き手としての成長																																								
他者とコミュニケーションを楽しむことを理解することの基礎となる言葉への興味関心を高める。 <u>(対話の素地の育成)</u>	低学年	コミュニケーションゲーム 討論 (ディベート) ゲーム 討論型授業 (二項対立的)	(年間を通して) ・話すことの楽しさを味わう。 ・理由をつけて話す。 ・「はじめ・なか・まとめ・むすび」で話す。 ・「スピーチ+質疑応答」のあり方を体験する。 ・応答関係を楽しむディベートの話し合い活動等をする。 ・(小3) 6年生のモデルディベートを参観する。	・自分たちで論議を決め、マイクログループをする。 ・ディベートの形に合った発言記録に取り組む。	・反駁の仕方を確認し、マイクログループをする。 ・ディベートの形に合った発言記録に取り組む。	・楽しみながら聞くことができる。 ・組み立てに気を付けながら聞くことができる。 ・話を聞き比べる。 ・自分の考えと比べながら聞くことができる。	・進んで話そうとする子どもが増え、コミュニケーションが増す。 ・友達の意見をすすんで聞こうとする子どもが増え、支持的風土が広がる。 ・進んで質問することができるようになり、学習に主体的に取り組むようになる。																																									
	基礎期	小学4年	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td><td>⑦</td><td>⑧</td> </tr> <tr> <td>A</td><td>作戦</td><td>質疑</td><td>B</td><td>作戦</td><td>B</td><td>反駁1</td><td>B</td> </tr> <tr> <td>立論</td><td>作戦</td><td>質疑</td><td>A</td><td>作戦</td><td>A</td><td>反駁1</td><td>反駁1</td> </tr> <tr> <td>立論</td><td>作戦</td><td>質疑</td><td>A</td><td>作戦</td><td>A</td><td>反駁1</td><td>反駁1</td> </tr> <tr> <td>②</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td></td><td>⑨</td> </tr> </table>	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	A	作戦	質疑	B	作戦	B	反駁1	B	立論	作戦	質疑	A	作戦	A	反駁1	反駁1	立論	作戦	質疑	A	作戦	A	反駁1	反駁1	②	④	⑤	⑥	⑦	⑧		⑨	・判断のルールを確認し、討論ゲームを楽しむ。 ・ディベートのルールや役割について知る。 ・発言記録の方法を学ぶ。	・自分たちで論議を決め、マイクログループをする。 ・ディベートの形に合った発言記録に取り組む。	・反駁の仕方を確認し、マイクログループをする。 ・ディベートの形に合った発言記録に取り組む。	・メリット、デメリットの話し方ができる。 ・意見を理由と結論とに分け、理由を否定することができる。 ・結論と根拠の関係を考え、話すことができる。 ・資料を使って立論を作ることができる。	・話を批判的に聞くことができる。 ・確認したいことを考えながら聞くことができる。 ・反駁を考えながら聞くことができる。 ・要点をメモしながら聞くことができる。
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧																																									
A	作戦	質疑	B	作戦	B	反駁1	B																																									
立論	作戦	質疑	A	作戦	A	反駁1	反駁1																																									
立論	作戦	質疑	A	作戦	A	反駁1	反駁1																																									
②	④	⑤	⑥	⑦	⑧		⑨																																									
様々なディベートの実践を通して、討論を楽しむ考え続けることができる力を育む。	小学5年	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td><td>⑦</td><td>⑧</td> </tr> <tr> <td>肯定立論</td><td>作戦</td><td>否定</td><td>質疑</td><td>作戦</td><td>肯定</td><td>反駁1</td><td>肯定</td> </tr> <tr> <td>否定立論</td><td>作戦</td><td>肯定</td><td>質疑</td><td>作戦</td><td>肯定</td><td>反駁1</td><td>肯定</td> </tr> <tr> <td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td><td>⑩</td><td>⑪</td> </tr> </table> <p>【注】 ③⑧は否定側からの質疑と反駁 ⑥⑨は肯定側からの質疑と反駁 ※下記の高学年の進行の流れに合わせた発展的実践も可能</p>	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	肯定立論	作戦	否定	質疑	作戦	肯定	反駁1	肯定	否定立論	作戦	肯定	質疑	作戦	肯定	反駁1	肯定	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	・判断のルールを決めて討論ゲームを楽しむ。 ・自分たちで論議を決める。 ・発言記録の方法を確認し、ミニディベートをする。	・立論提示型ディベートを行い、効果的な質疑と反駁の仕方を考える。 ・効果的な情報選択を含む説得力のある立論の書き方について考える。 ・アフターディベートに取り組む。	・第1反駁までのディベートを実施し、立論・質疑応答・反駁の質を高めるワークショップを行う。 ・アフターディベートに取り組む。	・メリット、デメリットの話し方ができる。 ・意見を理由と結論とに分け、理由を否定することができる。 ・結論と根拠の関係を考え、話すことができる。 ・資料を使って立論を作ることができる。	・話を批判的に聞くことができる。 ・確認したいことを考えながら聞くことができる。 ・反駁を考えながら聞くことができる。 ・要点をメモしながら聞くことができる。	・友達の意見にも質問や反駁ができるようになり、対話的な学習ができるようになる。 ・人と意見を区別して話したり聞いたりすることができるようになり、建設的な議論が可能になる。								
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧																																									
肯定立論	作戦	否定	質疑	作戦	肯定	反駁1	肯定																																									
否定立論	作戦	肯定	質疑	作戦	肯定	反駁1	肯定																																									
④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪																																									
実践期	小学6年	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td><td>⑦</td><td>⑧</td> </tr> <tr> <td>肯定立論</td><td>作戦</td><td>否定</td><td>質疑</td><td>作戦</td><td>肯定</td><td>反駁1</td><td>肯定</td> </tr> <tr> <td>否定立論</td><td>作戦</td><td>肯定</td><td>質疑</td><td>作戦</td><td>肯定</td><td>反駁1</td><td>肯定</td> </tr> <tr> <td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td><td>⑩</td><td>⑪</td> </tr> </table> <p>【注】 ③は否定側からの質疑 ⑥は肯定側からの質疑 ⑧は否定側の第1反駁 ⑨は肯定側の第1反駁 ⑪は、⑨に対する否定側の第2反駁 ⑫は、⑧に対する肯定側の第2反駁</p>	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	肯定立論	作戦	否定	質疑	作戦	肯定	反駁1	肯定	否定立論	作戦	肯定	質疑	作戦	肯定	反駁1	肯定	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	・メリット・デメリットによるディベートをする。 ・シンキングツール等を使った論理構築をする。 ・反駁型ディベートに取り組む、第2反駁の仕方を知る。 ・アフターディベートに取り組む。	・立論提示型ディベートを行い、効果的な質疑・反駁の仕方を考える。 ・「学級ディベート大会」をする。 ・ピフオー及びアフターディベートに取り組む。	・第2反駁までを含むディベートをする。 ・「学級ディベート大会」をする。 ・ピフオー及びアフターディベートに取り組む。 ・モデルディベートを3年生(4・5年生)に披露する。	・相手の質問を受けて、反駁ができる。 ・自分で課題を決め、ディベート的な意見を主張できる。	・結論と理由の関係に気を付けて聞くことができる。 ・結論と根拠の関係を批判しながら聞くことができる。 ・自分の表現に友達のよさを取り入れるために聞くことができる。	・友達の意見にも質問や反駁ができるようになり、対話的な学習を深めることができる。 ・人と意見を区別して話したり聞いたりすることができるようになり、建設的な議論ができる。 ・どんな課題についても主体的・対話的に学習できる。								
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧																																									
肯定立論	作戦	否定	質疑	作戦	肯定	反駁1	肯定																																									
否定立論	作戦	肯定	質疑	作戦	肯定	反駁1	肯定																																									
④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪																																									

	<p>中学 1 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルディベートを参観する。 ・第 2 反駁までを含むディベートをする。 ・シンキングツール等を使った論理構築をする。 ・いずれかの立論を選択し、立論を修正する。 ・ビフォー及びアフターディベートに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベートで身に付けた技術を活かし、色々な話し合い討論をする。 ・「学級・学年ディベート大会」をする。 ・ビフォー及びアフターディベートに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学級・学年ディベート大会」をする。 ・ビフォー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で課題を決め、ディベート的な意見を主張できる。 ・相互の反駁をもとに立論を修正することができる。 ・発言内容、その解釈、評価を根拠にし、修正した立論を評価し合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結論と理由の関係を批判し、根拠の関係を批判しながら聞くことができる。 ・効果的な反駁を評価しながら聞くことができる。 ・自分の表現に友達よさを取り入れるために聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と意見を区別して話したり聞いたりすることができようになり、建設的な議論ができる。 ・全ての立場で利点があるような関係で学ぶ。 ・話し手、聞き手、判定、全ての立場が学べるような討論ができる。 ・どんな課題についても主体的・対話的に学習できる。
<p>深化期</p> <p>小学校でのディベートの実践を土台にして、戦略的に討論を進め、論理的に考え続けることが育む。</p>	<p>中学 2 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 反駁までを含むディベートをする。 ・議論をふり返り、立論を修正して、結論を考える。 ・ビフォー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の学習内容から、自分たちで論題を設定し、ディベートに取り組む。 ・「学級・学年ディベート大会」をする。 ・ビフォー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学級・学年ディベート大会」をする。 ・ビフォー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の学習における、作文やスピーチ等の表現活動において、ディベートで培った表現が活用できる。 ・複数の根拠から、より客観性の高い情報を根拠に発言することができる。 ・相互の反駁をもとに立論を修正することができる。 ・発言内容、その解釈、評価を根拠にし、修正した立論を評価し合うことができる。 ・即興的な議論においても自分の主張を述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結論と根拠の関係を批判しながら聞くことができる。 ・効果的な反駁を評価しながら聞くことができる。 ・双方の考えの共通点や相違点を意識しながら聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と意見を区別して話したり聞いたりすることができようになり、建設的な議論ができる。 ・全ての立場で利点があるような関係で学ぶ。 ・話し手、聞き手、判定、全ての立場が学べるような討論ができる。 ・自分の意見や一つの見方に固執せず、柔軟な態度で討論ができる。
	<p>中学 3 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルディベートを新入生に披露する。 ・第 2 反駁までを含むディベートをする。 ・ビフォー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。 ・ディベートの議論の流れを基に、小論文を書く（チャレンジ小論文）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の学習内容から、自分たちで論題を設定し、ディベートに取り組む。 ・「学級・学年ディベート大会」をする。 ・ビフォー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。 ・ディベートの議論の流れを基に、スピーチやプレゼンテーション等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学級・学年ディベート大会」をする。 ・ビフォー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の学習における、作文やスピーチ等の表現活動において、ディベートで培った表現が活用できる。 ・討論の目的を意識し、観点を絞って意見や根拠を絞り込むことができる。 ・相互の反駁をもとに立論を修正することができる。 ・発言内容、その解釈、評価を根拠にし、修正した立論を評価し合うことができる。 ・即興的な議論においても自分の主張を述べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・結論と根拠の関係を批判しながら聞くことができる。 ・効果的な反駁を評価しながら聞くことができる。 ・双方の意見の長所を捉え、よりよい結論を考えながら聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と意見を区別して話したり聞いたりすることができようになり、建設的な議論ができる。 ・全ての立場で利点があるような関係で学ぶ。 ・話し手、聞き手、判定、全ての立場が学べるような討論ができる。 ・自分の意見や一つの見方に固執せず、柔軟な態度で討論ができる。 ・これまでのディベート学習や、政策論題を通して、社会問題について学び、社会参加への意識を高めることができる。

①	肯定立論	②	作戦	③	否定質疑	④	肯定	⑤	肯定立論	⑥	肯定	⑦	作戦	⑧	否定反駁	⑨	肯定反駁	⑩	肯定	⑪	肯定反駁
---	------	---	----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	------	---	------	---	----	---	------

【注】

- ③は否定側からの質疑
- ⑥は肯定側からの質疑
- ⑧は否定側の第 1 反駁
- ⑨は肯定側の第 1 反駁
- ⑪は、⑨に対する否定側の第 2 反駁
- ⑫は、⑧に対する肯定側の第 2 反駁

肯定側立論 (① : 2分)

◎メリット		
○メリットが起きる理由		
○重要性		

作戦タイム (② : 1分)

否定側質疑 (③ : 1分)

--

作戦タイム (⑦ : 1分)

否定側第一反駁 (⑧ : 1分)

--

作戦タイム (⑩ : 1分)

肯定側第二反駁 (⑫ : 1分)

--

否定側立論 (④ : 2分)

◎デメリット		
○デメリットが起きる理由		
○深刻性		

作戦タイム (⑤ : 1分)

肯定側質疑 (⑥ : 1分)

--

肯定側第一反駁 (⑨ : 1分)

--

否定側第二反駁 (⑪ : 1分)

--

肯定側立論 (①：2分)

メリット

今から、論題「日本の小中学校は携帯電話等の校内への持ち込みを許可すべきである」に肯定側の立場で立論します。

起きるメリットは「登下校時の安全・安心が確保される」です。なぜ、このメリットが起きるのか説明します。近年、登下校中の子どもが犯罪被害にあう事件や事故が多発しています。また、昨年6月には大阪府北部地震が登校時間帯に発生し、登下校中の安全確保について不安な声が上がっています。

このような事態を踏まえ、2019年2月19日文科科学省が「小中学校は持ち込みを原則禁止」という指針を発表しました。

引用開始
2019年2月19日朝日新聞デジタルから。柴山昌彦文部科学相は19日の会見で、携帯電話等やスマートフォンについて「小中学校は持ち込みを原則禁止」「高校は校内での使用を禁止」という指針を見直す方針を明らかにした。大阪府が18日に公表した、災害時の対応などを考慮して持ち込みを認める案についての考えを聞かれ、答えた。引用終了。

このように、携帯電話等の持ち込みを許可することは、私たち子どもに大切な命を危険や災害から守るために有効な手段であるとされています。

重要性
命より大切なものはありません。その命を守るために携帯電話等の持ち込みを許可すべきです。

以上で、肯定側の立論を終わります。

否定側質疑 (③：1分)

理由

質問側：なぜ、~~~~~と言えるのですか。
回答側：〇〇〇〇〇〇だからです。
質問側：なぜ〇〇〇〇〇だと、〇〇〇〇〇〇と言え
るのですか。

根拠 (データ)

※引用内容を提示する場合は、原則この様式に倣うとよい。また、発達段階に応じた、伝え方を変えてもよい。

(例)
「...発表しました。その中では、携帯電話等やスマートフォンについて、「小中学校は持ち込みを原則禁止」「高校は校内での使用を禁止」という指針を見直す方針を明らかにしたと示されています。」

作戦タイム (②：1分)

否定側第一反駁 (⑧：1分)

反駁 (反論) の4拍子

①肯定側は
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 と言いました。
引用

②しかし、それは認められません。
(たいしたメリットになりません)
否定

③なぜかというと
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
(理由を説明する) 根拠

④そのため、肯定側のいう
「登下校時の安心・安全が確保される」という
メリットは起こりません。
結論

肯定側第二反駁 (⑩：1分)

反駁 (反論) の4拍子

①否定側は
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 と言いました。
引用

②しかし、それは認められません。
否定

③なぜかというと
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
(理由を説明する) 根拠

④そのため、
「登下校時の安全・安心が確保される」という
メリットが起きます。
結論

作戦タイム (⑩：1分)

肯定側質疑 (⑥：1分)

理由

質問側：なぜ、~~~~~と言えるのですか。
回答側：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇だからです。
質問側：なぜ〇〇〇〇〇〇だと、〇〇〇〇〇〇〇〇と言え
るのですか。

根拠 (データ)

作戦タイム (⑤：1分)

否定側立論 (④：2分)

デメリット

今から、論題「日本の小中学校は携帯電話等の校内への持ち込みを許可すべきである」に否定側の立場で立論します。

起きるデメリットは「学力が下がる」です。なぜ、このデメリットが起きるのか説明します。校内への持ち込みを許可すると携帯電話等の使用時間が増えます。携帯電話等にはゲームやネット接続の機能があります。これらはとても興味を引くもので、子どもも大人も夢中になって使用してしまいます。休み時間使ってしまう。授業中に隠れて使用する人も出てきます。すると、学校に来てもゲーム等ばかりしてしまいます。このように、ゲームやネット接続等の時間が長くなると学力が下がります。その根拠を述べます。

引用開始
2014年8月25日文科科学省平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について(概要)児童生徒の学習・生活習慣と学力との関係から。次の児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。【児童生徒質問紙】携帯電話やスマートフォンで通話・メール・インターネットをする時間が短い。
引用終了。

この調査結果では、中学校数学Bにおいて、携帯電話等を1日当たり4時間以上使用している生徒と30分未満の生徒では、平均正答率の差が18.6%あり使用時間が長いと学力が低くなっています。

深刻性を述べます。
小中学生において、学力をつけることは大切なことです。携帯電話等の持ち込みを許可することで、学力に悪影響が起ることは明らかです。

以上で、否定側の立論を終わります。

深刻性

肯定側第一反駁 (⑨：1分)

反駁 (反論) の4拍子

①否定側は
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 と言いました。
引用

②しかし、それは認められません。
(たいしたデメリットではありません)
否定

③なぜかというと
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
(理由を説明する) 根拠

④そのため、否定側のいう
「学力が下がる」というデメリットは
起こりません。
結論

否定側第二反駁 (⑪：1分)

反駁 (反論) の4拍子

①肯定側は
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 と言いました。
引用

②しかし、それは認められません。
否定

③なぜかというと
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
(理由を説明する) 根拠

④そのため、
「学力が下がる」というデメリットが起きます。
結論

肯定側立論 (① : 2分)

◆メリットが1つの場合「巻末資料③」を基本とする。

◆メリットが複数ある場合は、それぞれに「理由づけ」と「重要性」を述べる。

(例) 私たちは、論題「図書室にマンガも置くべきである。」について肯定側の立場で立論します。起きているメリットは2つあります。

1つ目は「本に触れる機会を増やす」ということです。読書に苦手意識があり、本を読まなければならぬから読むという人が、…(理由づけ)…。マンガを含め、本に触れる機会が増えることで、知識も増えることはまちがいない。(←重要性)

2つ目は「表現力が豊かになる」ということです。みなさん、「〇〇」というフレーズを知っていますか？(理由づけ)…。

このように、豊かな表現に触れることは、自身の表現力を豊かにするとともに、自分の生き方を方向付けることにもつながります。(←重要性)

以上のことから、私たちは「図書室にマンガを置くべきである」と考えます。

作戦タイム (② : 1分)

否定側質疑 (③ : 1分)

◆「相手の意図」と「自分の解釈」にズレが生じないよう、「確認」の質問をする。

※「意見を尊重すること」につながらない

(例) ・立論で「本に触れる」と言っていますが「マンガ」も含んでいますか？

◆意見の不足さを指摘する(反駁する)ために、質問する。

(例) ・先程提示したデータは、いつのものでですか？(信憑性を指摘するため)

・アンケートの対象者はだれですか？(テーマとの整合性・妥当性を指摘するため)

・立論で…と述べていましたが、なぜ「マンガから読書へ移る」と言いきれるのでしょうか？(因果関係等、論理を指摘するため)

作戦タイム (⑦) 作戦タイム (⑧) : 1分

否定側第一反駁 (⑧ : 1分)

◆相手の立論内容を引用して論理的に反論する。

※「データの有無」に対する反論だけでなく、相手の論理(因果関係等)に対しても反論(説得)できるように努める。

(例) ・先程、肯定側は「本に触れる機会を増やすこと」「知識を増やす」と述べていましたが、それは認められません。そもそもマンガはあくまでも娯楽を目的としたものであり、図書設置の目的から外れる点において、ふさわしくありません。絵本や文学作品を含むあらゆるジャンルの本に親しむことを目的として図書室は設置されており、そういう意味で「本に触れる機会を確保」できています。つまり、マンガを設置せずとも「知識を増やせる」環境はすでに整っており、マンガから得られる「知識」は対象としていません。…

肯定側第一反駁 (⑨ : 1分)

肯定側第二反駁 (⑩ : 1分)

◆第一反駁の内容について論理的に反論する。

※原則、全ての内容について反駁することを目指す。

(例) 先程否定側は、「図書設置のねらいとのズレ」を主張していましたが、それは認められません。マンガは「日本文化のシンボル」として、世界中で年々その「価値」が高まっています。確かに娯楽の一面はありますが、立論で述べたように、「人生の指針」「座右の銘」とも言える名言を世に残しています。これは、文学作品という「主題」と重なり、「生き方・在り方」を見つめ直す機会となります。以上のような理由から、現状の図書館のねらいに固執せず、興味・関心を出発点に豊かに学ぶために図書室にマンガを設置するべきだと考えます。

また、「〇〇」という主張も認められません。…

否定側第二反駁 (⑪ : 1分)

肯定側立論 (④ : 2分)

◎デメリット

○デメリットが起きている理由

○深刻性

作戦タイム (⑤ : 1分)

否定側立論 (④ : 2分)

作戦タイム (⑥ : 1分)

作戦タイム (⑥) : 1分

R5 各校実施ディベート論題事例

この論題事例は、令和2年度から4年度にかけて、市内各小中学校で行われたディベートの論題の一例です。実践の参考にしてください。

※各学校、地域、家庭の実態を考慮し、人権に十分配慮した上で実施するようにして下さい。

○価値論題例

【4年生以上の全学年・全校種】

- ・「ペットを飼うなら犬より猫の方がよい。」
- ・「朝はご飯よりもパンの方がよい。」
- ・「夏よりも冬の方がよい」
- ・「電話より手紙の方が気持ちが伝わる。」
- ・「大人と子どもでは、どちらが得か。」
- ・「国民食にするならカレーかラーメンか。」
- ・「より効果があるのは、予習か復習か。」
- ・「動物園の動物と野生の動物は、どちらが幸せか。」
- ・「好きなものから食べるか、苦手なものから食べるか。」
- ・「学校で食べるのは、弁当がいいか、給食がいいか。」
- ・「夏休みの宿題、毎日少しずつするか、一気にするか。」
- ・「タイムマシン開発！行くなら過去か未来か。」
- ・「いっしょに過ごすなら、生きている犬の方がロボット犬よりよい。」
- ・「家にテレビは必要である。是か非か。」

【主に高学年以上】

- ・「家を建てるなら木よりもコンクリートの方がよい。」
- ・「新聞よりテレビの方が情報を得やすい。」
- ・「受信した内容を読み、返信をしないことはありかなしか。」
- ・「無人島で生きるのに必要なのは、ナイフかライターか。」
- ・「宿題と自主学は、どちらが大事か。」
- ・「大切なのは愛かお金か。」
- ・「敬語は使うべきである。」
- ・「嘘をつくのは、許されるべきである。」
- ・「好きな人は、一人に絞るべきである。」
- ・「試験前日は、夜遅くまで勉強するべきだ。」
- ・「和食と洋食、どちらが優れているか。」
- ・「各家庭で植物を植えたり育てたりするべきだ。」
- ・「好きな職業を仕事にすべきである。」
- ・「eスポーツはスポーツといえるのか。」
- ・「将来のために進学するなら、私立である。賛成か反対か。」

○政策論題例

【4年生以上の全学年・全校種】

- ・「動物園を廃止すべきである。」
- ・「学校に自動販売機を設置すべきである。」
- ・「学級文庫にマンガを置くべきである。」
- ・「学校の図書館にマンガを置くべきである。」
- ・「クラスでは生き物を飼うべきである。」
- ・「公園のごみ箱はなくすべきである。」
- ・「寝屋川市に〇〇（動物園・水族館・遊園地等）は必要である。」
- ・「〇〇学校は、20分休みを1時間休みにするべきである。」
- ・「〇〇学校は、置き勉を許可すべきである。」
- ・「〇〇小学校は、ランドセルをやめて、自由なカバンにするべきである。」
- ・「ヒーローが戦うときは、街を壊しても許されるべきである。」
- ・「ペットの売買はやめるべきである。」
- ・「野比家はドラえもんを21世紀に帰すべきである。」
- ・「ポイ捨てする人には罰金や罰則をかけるべきだ。」
- ・「日本国内では、ごみ袋持参でごみを管理するべきだ。」
- ・「お知らせなどは、プリントでもらうか、タブレット(ペーパーレス化)でもらうか。」

【主に高学年以上】

- ・「学校の宿題は、すべて自学にするべきである。」
- ・「電車の優先席は廃止すべきである。」
- ・「救急車の利用を有料にすべきである。」
- ・「学校への携帯電話の持ち込みを許可するべきである。」
- ・「タバコの値段を1000円にすべきである。」
- ・「コンビニの24時間営業は禁止すべきである。」
- ・「〇〇学校は、担任制度を廃止すべきである。」
- ・「小中学校の授業を週6日制に戻すべきである。」
- ・「バレンタインデーを廃止すべきである。」
- ・「自転車乗車を免許制度にすべきである。」
- ・「ごみの収集を有料にすべきである。」
- ・「〇〇学校は、全ての授業をオンラインに変えるべきである。」
- ・「登下校は、自転車でも良しとするべきである。」
- ・「〇〇学校は、テレビ、スマホ視聴を週4日に限定すべきである。」
- ・「男性専用車両も作るべきである。」
- ・「貧しい国に募金することを義務化するべきだ。」
- ・「中学校の部活としてeスポーツはあってもよい。」
- ・「小学生は無料通話アプリLINEの時間帯を制限すべきである。」
- ・「SNS投票は、実名でするべきである。」

【主に中学生】

- ・「サマータイム制を導入すべきである。」
- ・「(男性の)育児休暇を義務化するべきである。」
- ・「定年制を廃止すべきである。」
- ・「選挙で投票しない人には罰を与えるべきである。」
- ・「選挙は中学生から投票できるようにすべきである。」
- ・「高速道路を全面無料化すべきである。」
- ・「大人の給料は、全員同じにするべきである。」

- ・「日本は同性婚を認めるべきである。」
- ・「最低賃金を全国一律にすべきである。」
- ・「日本の企業は週3日制を導入するべきである。」
- ・「男性の育児休暇を義務化すべきである。」
- ・「職場の飲み会は必要であるか、否か。」
- ・「日本は中学校・高等学校の部活動制度を廃止するべきである。」
- ・「日本は9月入学制にするべきである。」
- ・「定期テストは每学期1回のみとするべきである。」
- ・「高校入試は、入学試験の点数で合格、不合格を決めるべきである。」
- ・「授業開始前のメロディーチャイムを廃止するべきである。」
- ・「清掃活動を週に2回(火曜日・金曜日)のみの実施とするべきである。」
- ・「日本は核兵器禁止条約に署名するべきである。是か非か。」

○研究協力校・D-1 グランプリにおける実施論題

【明和小学校】

(R4年度)

- ・日本は、救急車の利用を有料化するべきである。(小5)

【石津小学校】

(R2年度)

- ・「教室で生き物を飼うべきである。」(小5)
- ・「情報収集するならインターネットか紙媒体か。」(R2小6)
- ・「コロナがさらに拡大した場合、小学校は休校にすべきである。」(R2小5)
- ・「小学校は完全オンライン化するべきである。」(R2小6)

(R3年度)

- ・「寝屋川市では、家庭ごみの回収を有料にするべきである」(小4) ※R3共通論題
- ・「日本では食品ロスを含む生ごみの排出量に応じて、お金を払うべきである」(小5)
- ・「飲食店は、わりばしの使用を廃止するべきである」(小6)

(R4年度)

- ・日本では、節電を推し進めるために、電気料金を値上げするべきである。(小5)
- ・日本では、全ての火力発電を代替発電に代えるべきである。(小6)

【第四中学校】

(R2年度)

- ・「〇〇鉄道は、電車の優先席を廃止すべきである。」(中1)
- ・「洋画は吹き替えで見るべきか、字幕で見るべきか。」(中1)

(R3年度)

- ・「四中での昼食は、弁当と給食ではどちらが優れているか」(中1)
- ・(「スイッチョ」という詩を使って)
「最後の空欄には明るい言葉が入るか、暗い言葉が入るか」(教員研修)
- ・「使い捨てプラスチック容器の使用を禁止するべきである」(中2)

(R4年度)

- ・チャイムは鳴らすべきである。(中1)
- ・学校にスマホを持っていくことは必要である。(中3)

【第八中学校】

(R4年度)

- ・桃太郎のお供は果たして本当に幸せだったのか。

- ・中学校の部活動の指導は、教師が行うのではなく外部の専門家に依頼すべきである。
- ・高校生はアルバイトをするべきである。

【寝屋川教育フォーラム 2022】

- ・全ての自動車は、電気自動車にするべきである。(小6)
- ・飲料用のペットボトルは、全てビンにするべきである。(中2)

【D-1 グランプリ 2023】

《小学生の部》

- ・日本では、穀物の自給率を高めるべきだ。

《中学生の部》

- ・仕事において重視するのは、お金よりやりがいである。

○論題に関する工夫例

- ・「定義」付けをする。(R3. 1月の石津小指導案等参照)
- ・「誰がそれをすべきなのか」という主語を明確にする。
(「〇年〇組は」「〇〇小学校は」「寝屋川市は」「日本は」等)
- ・一度行った論題の主語を変えて再度やってみる。
- ・同じ論題で複数回ディベートマッチを行い、一人ひとりが「肯定側」「否定側」「ジャッジ」を全て経験できるようにする。

○系統的な論題の活用例

- ・「SDGs の視点を取り入れた論題」の系統的な活用例
(小4)「公共の水道は今後も必要である」
↓
(小5)「家庭からごみを出すのは有料にすべきである」
↓
(小6)「割りばしの使用は今後も認めるべきである」
↓
(中1)「水道料金を無料にすべきである」
↓
(中2)「レストラン等での食べ残しには、追加料金を設定すべきである」
↓
(中3)「プラスチックストローは有料にすべきである」

各教科との関連を図った論題例(小・中)

次ページからの論題例は、各学年・各教科においてディベートや、二項対立のディベート的な話し合いを行う際の論題例です。

教科書のページと、その学習内容に関連する論題例を記載しています。

こうした論題を「単元の始め」に設定すると、その後の学びが深まる可能性があり、「単元末」に設定すると、学習内容の定着や発展的な内容の学習へとつながる可能性があります。

「準備型」「即興型」というディベートの手法の選択も併せて、児童生徒の実態に合わせた論題設定を心がけましょう。

教科書名	ページ	タイトル	論題	補足
国語科（光村図書）				
国語 四年 上		分ける・くらべる	—	分けること（カテゴライズ）やくらべること（比較）はディベートにおいて重要な要素。
	21~34	白いぼうし	題名にふさわしいのは白い帽子？夏みかん？	作品の主題を考えることを通して、「精査・解釈」を促す。
	44	聞き取りメモの工夫	—	ディベートにおいて、メモをすることは重要。
	53~66	筆者の考えをとらえて、自分の考えを发表しよう	—	具体的な例（具体例）を意識することは、ディベートでの説得力を上げるために重要。
	90~91	要約するとき	—	要約することは、相手の話をまとめて反論するとき、ディベートのまとめをするとき、に重要。
	98		中休みは、外に行くよりも部屋にいる方がよい。	
	~R5 教科書	ランドセルは海をこえて	世界の小学校は、カバンではなく、ランドセルを持たせるべきだ。	
	~R5 教科書	中央清掃工場はどのようにごみを処理しているのかな。	ごみの回収は有料とすべきだ。	※社会4年でも取り扱っている。
国語 四年 下		分ける・くらべる	—	いくつに分けるか、また1点目は～とナンバリングすることは、ディベートでも用いられる。物事の前後と後とを比べることは、ディベートでの政策をとる前、とった後の比較で使えるテクニック。
	48~59	未来につなぐ工芸品	100均グッズよりも伝統工芸品を買うべきである。	
	~R5 教科書	うなぎのなぞを追って	ウナギを食べることはやめたほうがよい。	※（ニホン）ウナギは急激に減少していて絶滅してしまう可能性がある、という情報を与えたうえで、議論できるとよいでしょう。
国語 五年	48	インタビューしよう	—	もっとも聞きたいことを、はっきりさせておく。→ディベートにおける質疑応答で重要。
	104~105	どちらを選びますか	・ペットにするなら、犬よりもねこのほうがよい。 ・ペットにするなら、本物の犬よりもロボット犬のほうがよい。	※AとBを比較するディベートでは、できるだけAとBの差が見えやすいものを設定してあげるほうがよい。
	184~189	あなたは、どう考える	・電車やバスの優先席は必要である。 ・スーパーマーケットは二十四時間営業がよい。 ・病院の呼び出しは、番号よりも名前がよい。	
	199~210	想像力のスイッチを入れよう	新聞よりもインターネットを使うべきである。	
国語 六年		ものの考え方、伝え方	—	順序立てる・分ける・比べる 全体と中心・考えとその理由や事例・原因と結果 考えをつなげる、広げる 上記、いずれもディベートの重要な要素。
	65	主張と事例	昼休みは、長いほうがよい。	
	102~103	一番大事なものは	—	ディベートでは、「肯定/否定チームで最も大事なこと（価値観）：チームスタンス」や「そのディベートで最も大事なこと」を考えることが重要。
	~R5 教科書	プログラミングで未来を創る	先生は、人間よりもAIのほうがよい。	

国際コミュニケーション科(外国語科)（東京書籍）				
NEW HORIZON Elementary English Course 5	70~71	日本の四季ポストカードを紹介しよう。	住むなら、四季のある国がよい。	
NEW HORIZON Elementary English Course 6	28~29	世界遺産について考えよう。	修学旅行では、世界遺産に行くべきだ。	
	34~35	Summer Vacation in the World	夏休みは海よりも山に行く方がよい。	
	48~59	環境～食料事情	—	FYI: 題材として、社会問題が取り上げられている。キーワードは、絶滅危惧種、ごみ、水資源、ボランティア、食べ残し、栄養不足。
社会科（日本文教出版）				
社会 4年	32~50	ごみのしよりと活用	ごみの回収は有料とすべきだ。 家庭ごみの量で回収料金を設定するべきだ。	※国語四年上にも関連
	全般	全般	—	FYI: ディベートを行うにはもう少し掘り下げる/調べることが必要ではあるが、以下のトピックが取り上げられている。 水、電気、ガス、地球温暖化 地震、津波、火山 原子爆弾 祭り、日本遺産、バイオマス、天然林・人工林 多文化共生
社会 5年	120~135	これからの食料生産	食料品は、外国産よりも国産を選ぶべきだ。	※以下のポイント（すべて教科書に記載）を踏まえて議論するとよい。 ・食料自給率、輸入、ねだん、耕地面積、買い付け、かんばつ、収入、天候、さいばい漁業、地産地消、水産資源、トレーサビリティ
	120~135	これからの食料生産	朝食には洋食よりも和食がよい。	保健体育（中学）、理科3（中学）でも取り扱っている。
	120~135	これからの食料生産	日本は穀物の食料自給率を高めるべきである。	日本の地形の特長、外交関係、自然保護等、多面的に食料自給率について考察する。
	144~159	自動車工業のさかんな地域	自動車の自動運転は害よりも利益をもたらす。	国語1（中学）、理科1・3（中学）、技術分野（中学）でも取り扱っている。
	144~159	自動車工業のさかんな地域	全ての自動車は、電気自動車にするべきである。	「販売する自動車」「2050年までに達成」などの定義づけを行う。
	254~265	森林と私たちのくらし	日本は食糧自給率を高めるために、森林を活用するべきである。	自然保護の観点から日本の食料自給率について捉え直す。
	240~253	自然災害から人々を守る	被災した際に、より重要なのは自助ではなく、共助である。 (被災した時) 避難所で避難生活を送るよりは家の庭や車などで避難生活を送る方がよい。	「防災学習」等、総合的な学習の時間と関連づけることで、多面的に考えることができる。 同上
266~275	環境とわたしたちのくらし	公害が出るほどの高度経済成長は必要であったか。	「今後のよりよい社会づくり」における重要な観点について考える。	
社会 6年	10~45	日本国憲法と政治のしくみ	消費税を増税させるべきである。	※税金のはたらき（p.36）で取り扱いがあるため、ディベートにおいて、政府が〇〇すべき、など税金が絡んでくる論題を設定するのもよさそう。
			日本は救急車の利用を有料化にするべきだ。	PUSH～命の授業～とも関連付けることで、多角的・多面的な見方ができやすくなる。

理科（啓林館）				
理科 4年	全般	生き物	生き物の観察は、春夏よりも秋冬のほうが面白い。	春夏秋冬それぞれの生き物の観察について記載があるため、学習が終わってから、各季節の生き物の特徴を児童なりに列挙できるとよい。
理科 5年	全般	全般	—	FYI: ディベートを行うにはもう少し掘り下げる/調べるが必要ではあるが、以下のトピックが取り上げられている。 ・植物工場（ディベートへの発展では、遺伝子組み換え食品、ゲノム編集） ・受精卵（ディベートへの発展では、人工授精・体外受精への公的助成、代理母、出生前診断） ・電磁石、モーター（ディベートへの発展では、自動運転、ロボット）
理科 6年		クラゲとましがえ 2 てビニル袋を食べようとするカメ	レジ袋は有料とすべきである。	
	全般	全般	—	FYI: ディベート自体を行うにはもう少し掘り下げる/調べるが必要ではあるが、以下のトピックが取り上げられている。 ・地震、TSUNAMI ・発電
図画工作科（開隆堂）				
図工 3・4年 上	—	—	—	
図工 3・4年 下	20～ 21,44～ 45	紙の箱だいへんし ん・カクカク板を 組み合わせたら	小物入れは、紙よりも木材で作る方がよい。	紙の特性、木材の特性を体験的に理解したうえでであると、意見がしやすい。
図工 5・6年 上	～R5 教科書	技術の発達と表現 の広がり	手作りよりもコンピュータを使った芸術を学ぶべきである。	どのような手作り/コンピュータのアートがあるか、図画工作で学んできた例を挙げながら議論する。
図工 5・6年 下	36～39	墨の達人・墨や筆 の技 水墨画の世 界へ	絵具より、墨での表現が楽しい。	絵具・墨での表現では、それぞれどのような工夫ができるか、体験的に学んだことを言語化する。
特別の教科 道徳（光村図書）				
道徳 4年	124～ 127	生き物と機械	ペットにするなら、本物の犬よりもロボット犬のほうがよい。	国語五年でも取り扱っている。
道徳 5年	84～85	インターネットの 特性とマナー	インターネットでのとくめい利用を禁止すべきである。	p.23記載：名前をかくせる—とくめい性
	124～ 127	クール・ボラン ティア	小学校でボランティア活動を義務化すべきである。	
道徳 6年	81～86	世界人権宣言から 学ぼう	—	ディベートでの争点を取り上げ、肯定・否定の価値観の差を見出すとき、記載の世界人権宣言の内容が大いにヒントとなる。 例：女性議員の割合を増やそう：世界人権宣言第二条「差別はいやだ」何をもって差別とするか。権利とは何か。 例：たばこの販売を禁止する：第二十九条「権利と身勝手はちがう」第三十条「権利をうばう「権利」はない」

保健体育科（東京書籍）				
保健体育 3・4年	42	すいみんと発育	小学生は9時までに寝ることを義務付けるべきである。	
保健体育 5・6年	34	インターネットによる犯罪被害	小学生はインターネットを使わない方がよい。	
	27~30	交通事故の防止	自転車乗車を免許制にすべきである。	
家庭科（東京書籍）				
家庭 5・6年	28~35	ひと針に心をこめて	雑巾は100均で買うより、手ぬい（やミシン）で作った方がよい。	手ぬい（またはミシン）の経験をもって、是非を問う。
	44~53	食べて元気！ご飯とみそ汁	給食は全て和食にするべきである。	洋食と比較しながら栄養面、食料自給率向上、伝統文化と関連させることができる。
	112~121	まかせてね 今日の食事	学校でお弁当が必要なときは、保護者ではなく生徒自身が作るべきである。	p.114弁当作り

教科書名	ページ	タイトル	論題	補足
国語科（光村図書）				
国語 一年	9～10	思考の地図	—	ブレスト：ディベートの準備、比較・分類：ディベートでのまとめ、分析・吟味：ディベートでのスピーチ作成
	46～49	ちょっと立ち止まって	—	ディベートでも視点によって、よいこと、悪いことが変わる。例）人口減少はよいことか、悪いことか
	52～53	思考のレッスン1（意見と根拠）	学校でのインターネット利用を増やすべきだ。	
	176～183	「不便」の価値を見つめ直す	自動車の自動運転は社会に利益をもたらす。	
	220～221	構成や描写を工夫して書こう	—	構成および描写はディベートのスピーチにおいて重要な要素である。
国語 二年	9～10	思考の地図	—	軸を2軸（実現性、効果）にする、根拠を複数示すなど：ディベートでの分析に有効
	32, 52, 132	思考の視覚化、具体と抽象、根拠の吟味	—	
	64～65	「自分で考える時間」をもとう	マスコミは津波警報をやや過大に報道すべきである。	※理科1、社会地理でも取り扱っている。
	134～135	根拠の適切さを考えて書こう	コンビニの深夜営業をやめるべきである。	※教科書に記載あり
	139～143	異なる立場から考える	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生のスマートフォン利用を禁止すべきである。 ・救急車の利用を有料にすべきである。 ・AI（人工知能）は人々の生活を豊かにする。 ・すべての中学生は、ボランティアをすべきである。 	※教科書に記載あり
国語 三年	9～10	思考の地図	—	具体と抽象について、具体を複数挙げて関係性を理解する。
	32, 50	情報整理のレッスン、思考のレッスン	—	情報の信頼性、具体化・抽象化はディベートにおいて重要な要素である。
	116	論理の展開を整える	—	文章校正および内容を整えることについて記載。
	124～129	人工知能との未来	AI（人工知能）先生は、人間の先生よりもよい。	
	136～137	合意形成に向けて話し合おう	—	ディベートにおけるジャッジの視点としても役立つ。
	234～243	説明的な文章を読むために	—	ディベートの重要な要素が記載されている。

英語科（開隆堂）				
SUNSHINE ENGLISH COURSE 1	126～129	モデルスピーチ	—	（教科書は、Scenes, Think, Retell, Interactの構成） 導入→展開（説明1, 2）→まとめ
SUNSHINE ENGLISH COURSE 2	24	Interact(Our School Trip, A Good Pet)	Domestic school trips are better than overseas school trips.	修学旅行は、海外より国内がよい
	24	Interact(Our School Trip, A Good Pet)	A dog is better than a turtle as a pet.	ペットにするなら、亀よりも犬がよい。
	110	説得力のある主張をしよう	Summer is better than winter.	冬よりも夏がよい。
SUNSHINE ENGLISH COURSE 3	7	Bentos Are Interesting!	Bentos are better than school lunches.	給食よりも弁当がよい。
	18	ディベートをしよう	The Internet is better than newspapers.	新聞よりもインターネットがよい。
	18	ディベートをしよう	It is better to watch a movie at home than in a movie theater.	映画は、映画館より家で見る方がよい。
	72	わかりやすい文章を考えよう	An electronic dictionary is better than a paper one.	※ディベートでよく使用するつなぎことば（First～. However, ～. For example, ～など）が紹介されている。 紙の辞書よりも電子辞書がよい。
	91～96	Is AI a Friend or an Enemy?	Artificial Intelligence(AI) is our enemy.	人工知能は人類の敵である。
理科（啓林館）				
理科 1年	101,119	4章語る大地、防災減災ラボ	マスコミは津波警報をやや過大に報道すべきである。	（p.118引用：災害を最小限にするためには、1人ひとりが液状化、津波、火砕流など、大地の変化に関する知識を身につけ、過去の災害の特徴などを学び、さまざまな情報を理解して活用することがたいせつである。） ディベートでは、上記の知識を持ちつつ、過大に報道せねば市民が避難しないのか、度重なるマスコミの過大報道で信用がなくなるのか考える。 社会科地理、国語2でも取り扱いあり。
	264～265	自動運転を支える光と音の科学	人間が運転するタクシーよりも、自動運転タクシーのほうがよい。	自動運転には、センサ（光、音）が使用されていることを学んだうえで、社会実装で何が問題になるかを考えさせる問い。
理科 2年	110～125	大気の動きと日本の四季	災害の情報は単一の情報ソースから周知されるべきである。	※難易度高い （天気の変化のメカニズムを理解したうえで議論する）
	162～211	物質の表し方、科学で宝石を生み出す	ダイヤモンドはそれほどの価値はない。	※ダイヤモンドの元素や性質、人工の場合はその作り方を理解したうえで、ダイヤモンドの価値を面白おかしく議論してみようか。
理科 3年	46～91	宇宙を観る	宇宙開発にもっとお金をかけるべきである。	
	124～141	電池とイオン	すべての乗用車を燃料電池自動車に変えるべきである。	
	248～249	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	新築住宅への太陽光パネル設置を義務化すべきである。	※2021.4 国土交通省 第1回「脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会」で議論
	250～265	自然と人間	朝食には洋食よりも和食がよい。	p262 ユネスコ無形文化遺産「和食」
	278～283	科学技術の利用とくらし	・自動車の自動運転は社会に利益をもたらす。 ・ペットにするなら、本物の犬よりもロボット犬のほうがよい。 ・ドローン兵器を禁止すべきである。	※自動運転は、国語1、理科1でも取り扱いあり。

社会科（歴史：東京書籍）（地理：帝国書院）（公民：日本文教出版）				
社会 歴史	160～167	欧米の進出と日本の開国	江戸幕府は開国すべきだった。	※準備型（証拠資料収型）ディベート
	168～185	明治維新	明治政府の富国強兵は害よりも利益をもたらした。	※準備型（証拠資料収型）ディベート
社会 地理	28～41	さまざまな土地の暮らし	暮らすなら北海道より沖縄県の方にすべきである。	※単元の始めに実施することで、目的を持って教科書の内容も確認できる。
	44	人々の生活と環境	定住するよりも、遊牧するほうが幸せである。	
	68～78	ヨーロッパ州	イギリスのEU離脱は、社会に利益をもたらした。	
	88～89	特定の輸出品に頼るアフリカの経済	フェアトレードは社会に利益をもたらす。	
	104～105	アメリカ合衆国にみる生産と消費の問題	多国籍企業は社会に利益をもたらす。	
	148～153	日本のさまざまな自然災害	マスコミは津波警報をやや過大に報道すべきである。	※理科1、国語2でも取り扱いあり。
	社会 公民	8～9	少子高齢化の社会で生きる私たち	少子高齢化は社会に利益をもたらす。
10～11		情報化で変わる社会と私たち	情報化社会は社会に利益をもたらした。	p11 引用：情報化によって、よくなった点と、課題になっている点を書き出しましょう。
12～13		グローバル化する社会で生きる私たち	グローバル化は社会に利益をもたらした。	p13 引用：グローバル化によってよくなった点と課題になっている点を書き出しましょう。
42～43		日本国憲法と国民主権	国民は首相を直接的に選ぶべきである。（日本は首相公選制を導入すべきだ。）	
48～49		等しく生きる権利	国会議員の一定数を女性とすべきである。（日本は、国会議員の一定数を女性とするクォータ制を導入すべきである。）	
58～59		社会の変化と人権保障—情報化と人権—	公共の場所での防犯カメラ設置を増やすべきである。	
60～61		「ネット社会」とつき合う方法	・フェイクニュースを拡散させた者に罪を課すべきである。 ・中高生のネットゲームの時間を規制すべきである。	
62～63		社会の変化と人権保障—科学技術と人権—	・出生前に胎児の遺伝子検査を行うことを禁止すべきである。 ・臓器移植を義務化すべきである。	※遺伝子検査や臓器提供自体の内容も大事だが、「人権」や「自己決定権」を学ぶ章であるため、それらを意識したディベートにしたい。
64～65		国際的な人権の保障	日本は難民をもっと受け入れるべきである。	
66～67		公共の福祉と国民の義務	公務員のストライキ権を認めるべきである。	
78～85, 107		国民主権と日本の政治	義務投票制を導入すべきである。	
95		規制緩和と民営化	民泊は利益をもたらす。	
100～103		裁判のしくみと人権の尊重	死刑を廃止すべきである。	
138～139, 165		株式会社のしくみと企業の社会的責任	会社で働くよりも、投資して暮らす方がよい。	
142～143		グローバル化する経済と現代の企業	日本は自由貿易を推進すべきである。	

社会 公民	148～149	変化する雇用のかたち	日本は外国人労働者を増やすべきである。	
	162～163	国の収入を支える税と国債	消費税を増やすべきである。	
	168～169	年金のしくみについて知ろう	年金支給開始年齢を70歳に引き上げるべきである。	
	202～203	限りある資源とエネルギー	原子力発電は害よりも利益をもたらす。	
	206～207	持続可能な社会をめざして	プラスチック製品に課税すべきである。	
特別の教科 道徳（日本文教出版）				
道徳 1年	56～61	よりよい社会と私たち	無人販売はやめたほうがよい。	
	62～65	あったほうがいい？	街中にゴミ箱は置かないほうがよい。	
	100～104	公平と不公平	－	ディベートでのまとめにおいて、公平か不公平かが対立軸になることがあり、本考え方は役立つ。
	128～130	家族を支え合うなかで	施設よりも自宅で介護する方がよい。	
道徳 2年	50～53	戦争取材する	ジャーナリストは紛争地に行くべきでない。	
	60～63	美しい鳥取砂丘	公共物への落書きをした者に終身刑を課す。	
	84～85	インターネットでの情報発信	インターネットでの匿名投稿を禁止すべきである。	
	140～143	ダジョー・ニシオカ	発展途上国に対する開発援助は害よりも利益をもたらす。	p.143引用：国際協力とは、一時的なものの援助であってはならない。（ヒント）
道徳 3年	101	さまざまな性	同性婚を合法化すべきである。	
	110～113	独りを慎む	家族と暮らすより、独りで暮らした方がよい。	
	136～139	臓器ドナー	臓器移植を義務化すべきである。	※社会公民においても取り扱っている。
技術・家庭科(家庭分野:東京書籍)				
家庭分野	24～25	私たちの食生活	共食よりも、孤食のほうがよい。	※新型コロナウイルス感染症対策で黙食が進んできている。今一度、食事について考えられるテーマ。
	96～99	持続可能な食生活を目指して	全商品にフードマイレージを記載すべきである。	
	108～109	衣服の選択と手入れ	制服を廃止すべきである。	
	132～153	生活を豊かにするために作って楽しい布作品	布製のプレゼントは、市販よりも手作りのほうがよい。	
	154～155	持続可能な衣生活を目指して	誕生日プレゼントには、新品の衣服より、リサイクル衣服を渡すべきだ。	
	164～173	住まいと気候風土の関わり	・洋式より和式の家の方がよい。 ・家を建てるなら、木造よりも鉄筋がよい。	
	186～201	私たちの消費生活	中学生もクレジットカードを使用できるようにすべきである。	
	190～191	バランス良く計画的な金銭の管理	小中学生はお小遣いをもらうべきである。	
	216～217	中学生としての自立	中学生は毎日1時間家事をすべきである。	

技術・家庭科(技術分野:東京書籍)				
技術分野	130~135	社会の発展と生物育成の技術	・遺伝子組み換え農作物を増やしていくべきである。 ・植物工場を大幅に増やすべきである。	
	138~145	エネルギー変換の技術	原子力発電は利益をもたらす。	社会公民でも取り扱っている。
	216~219	情報の技術の工夫を読み取るう	これからは英語よりもプログラミング言語習得のほうが役立つ。	
	236~239	計測・制御のプログラミングによる問題解決	自動車の自動運転は利益をもたらす。	国語1、理科1、3でも取り扱っている。
保健体育科（東京書籍）				
保健体育	10~11	食生活と健康	朝食には洋食よりも和食がよい。	理科3でも取り扱っている。
	12~17	休養・睡眠と健康	中学生は夜9時までに就寝すべきである。	
	138~139	生活に伴う廃棄物の衛生的管理	すべてのごみ収集は有料とすべきである。	
	170~178	現代社会におけるスポーツの文化的意義	国はスポーツにもっと助成すべきである。	
美術科（光村図書）				
美術 1年	10~81	見つけ、感じ取り、描く	プレゼントをするなら、絵よりも立体アートがよい。	
美術 2・3年	97	日本の伝統工芸	伝統技法（工芸品）は残すべきである。	
	100~103	日本の世界文化遺産	修学旅行では、世界文化遺産を訪れるべきである。	

※本資料は、本市教育委員である大阪公立大学 中川 智皓 准教授と共同作成しています。